9『少年ラヂオ』成井豊＋隈部雅則

○ジャンル／ストレートプレイ
○ストーリー／大正１５年１２月。小林ラヂオは１７歳。３年前の関東大震災で両親を亡くし、弟のコテツとともに親戚の家に引き取られたが、朝から晩まで扱き使われる生活に嫌気が差し、家を出る。しかし、仕事は見つからず、今は手先の器用さを活かして、スリをしている。ある日、ラヂオは上野駅で、他のスリに財布をすられて困っていた娘と出会う。娘の名は春日美汐。有名な春日財閥の一人娘だった……。
○出演者／男８＋女７＝計15
○上演時間／１２０分

登場人物

ラヂオ（スリ）
明智（自称・私立探偵）
美汐（春日家の令嬢）
潔（美汐の叔父）
朋子（潔の妻）
大牟田（潔の後輩）
筑紫野（春日家の執事）
藤子（カフェー新世界の女給）
つるよ（カフェー新世界の店主）
いね（スリ集団・カマイタチの頭）
金之助（いねの息子）
夏（いねの娘）

林太　（いねの息子）
田川　（ラヂオのアナウンサー）
コテツ　（ラヂオの弟）

日暮里の商家の裏口。コテツがやってくる。手には風呂敷包み。

コテツ　あーあ、腹減ったなあ。

そこへ、ラヂオがやってくる。

ラヂオ　コテツ。
コテツ　あ、兄ちゃん！
ラヂオ　お使いか？
コテツ　うん。築地の問屋さんに、見本を返しに。
ラヂオ　そうか。じゃ、停留場まで付き合うぜ。
コテツ　俺、停留場には行かない。市電には乗らないから。
ラヂオ　あのババア、日暮里から築地まで歩いていけって言ったのか？
コテツ　この頃、景気が良くないみたいで。だから、倹約だって。
ラヂオ　何が倹約だ。自分の娘には何でも好きな物を買ってやるくせに。おまえだって、あのババアから見たら、甥っ子なんだぞ。電車賃ぐらい出してくれって、言えばいいじゃねえか。
コテツ　ダメだよ。そんなこと言ったら、また叩かれる。

すまねえな。おまえにばっかり、辛い思いをさせて。そうだ。これ、お土産。

ラヂオ　（とキャラメルの箱を差し出す）

コテツ　キャラメルだ！　……いいの？

ラヂオ　おまえのために買ってきたんだよ。ほら、食え。

コテツ　ありがとう！（と受け取り、一粒取り出す）

ラヂオ　ケッ、ガツガツしやがって。おまえ、飯はちゃんと食わしてもらってるのか？

コテツ　兄ちゃんこそ、どうなんだよ。

ラヂオ　俺か？　聞いて、驚くなよ。俺は今、浅草の新世界ってレストランで働いてるんだ。飯は毎日、洋食だ。カツレツとか、ハヤシライスとか。

コテツ　いいなあ。

ラヂオ　その内、おまえにも食わせてやるさ。今はキャラメルで我慢しろ。

コテツ　うん。（とキャラメルを口に入れる）

ラヂオ　どうだ。うまいか？

コテツ　うまい。兄ちゃんも食べる？

ラヂオ　いらねえよ。キャラメルなんざ、毎日、飽きるほど食ってるからな。

コテツ　レストランは景気がいいんだね。じゃ、お金も貯まった？

ラヂオ　ああ。でも、いろいろ付き合いがあるから、出費も多くて。まあ、心配するな。五百円なんて端金、一年もすれば貯まる。

コテツ　そのセリフ、前も言ったね。

ラヂオ　そうか？

コテツ　言ったよ。兄ちゃんがここを出ていった時。「五百円なんて端金、一年もすれば貯まる」って。あれから、もうすぐ一年だよ。

ラヂオ　悪いが、一年、延長してくれ。来年の十二月までに、必ず五百円貯める。貯

めたら、必ずおまえを迎えに来る。ババアの面に銭を叩きつけて、言ってやる。「これで文句はねえだろう。コテツは俺が連れてくぜ」って。

コテツ　おばさん、悔しがるだろうな。

ラヂオ　一年なんざ、あっという間だ。それまで、辛抱できるか？

コテツ　できるに決まってるだろう？　じゃ、俺、行ってくる。（と歩き出す）

ラヂオ　コテツ！　今度来る時は、何がほしい。何でもほしい物を言ってみろ。

コテツ　俺、本がほしい。

ラヂオ　おまえ、本なんか読むのか？

コテツ　番頭さんが大好きでね。読み終わった本を貸してくれるんだ。でも、漱石とか芥川とか、堅っ苦しいのばっかりで。今、一番読みたいのは、『月世界旅行』って本。知ってる？

ラヂオ　ああ、『月世界旅行』ね。よし、任しとけ。今度来る時、必ず持ってきてやる。約束だ。

コテツ　うん。

コテツが去る。ラヂオが歩き出す。たくさんの人々が通り過ぎる。ラヂオがその間を擦り抜ける。一人が財布を掏られたことに気づく。ラヂオの後を追いかける。それでも、ラヂオは歩き続ける。やがて、すべての人々がラヂオを追い始める。が、ラヂオは巧みに身をかわし、まんまと逃げ果せる。

本郷の春日邸の玄関。美汐がやってくる。後を追って、筑紫野がやってくる。

筑紫野　お嬢様、どちらへおいでですか？
美汐　筑紫野、あなたにお願いがあるの。
筑紫野　はい、何でございましょう。
美汐　あなたはここで私に会わなかった。話もしなかった。そういうことにしてちょうだい。
筑紫野　そう仰られても、現にこうして話をしているわけですし。
美汐　だから、その記憶を消すのよ。じゃあね。（と歩き出す）
筑紫野　お待ちください、お嬢様。まさかとは思いますが、どこかへお出かけになるおつもりではないでしょうね？
美汐　いけない？
筑紫野　いけないに決まってます。潔様のお言いつけをお忘れになったのですか？体が元に戻るまでは、外出を控えるようにと。
美汐　私はもう健康です。
筑紫野　それを判断するのは、潔様です。さあ、お部屋へお戻りください。
美汐　ねえ、筑紫野。私がこの屋敷に来て、もう三年も経つのよ。その間、一度も外に出てないのよ。だから、お願い。見逃して。

筑紫野　そんなことをしたら、潔様に叱られます。
美汐　叔父様には、知らなかったと言えばいいじゃない。大丈夫よ。部屋のラヂオをつけっぱなしにしてきたから。叔父様は、私がラヂオを聞いてると思うでしょう。じゃあね、筑紫野。

美汐が走り去る。筑紫野が「お嬢様！」と叫びながら、後を追う。反対側から、朋子がやってくる。

朋子　筑紫野、大きな声を出すのはやめなさい。はしたない。
筑紫野　申し訳ありません、朋子様。
朋子　美汐さんはどこにいるの？　部屋を覗いたら、ラヂオがつけっぱなしになっていたわ。全く、だらしないんだから。
筑紫野　それがその、お嬢様は今、屋敷の外へ……。
朋子　まさか、外へ出ていったの？　筑紫野！　あなた、なぜ止めなかったの！

そこへ、潔がやってくる。

潔　朋子、大きな声を出さないでくれ。筑紫野が怯えている。
朋子　あなた、美汐さんが。
潔　話は聞こえた。（筑紫野に）美汐はどこへ行くか、言っていたか。
筑紫野　いいえ、何も。
潔　金は持っていったのか。
筑紫野　おそらくお持ちなってはいないと思います。この屋敷の中にいる限りは、遣

う必要がございませんから。

潔　ということは、市電にも円タクにも乗れないわけだ。走っていけば、追いつけるんじゃないか？

筑紫野　それはつまり、私に追いかけろということですね？　承知いたしました。

筑紫野が走り去る。

潔　無理をして、熱でも出さなければいいが。

朋子　そうなったら、自業自得よ。帰ってきたら、厳しく叱ってくださいね。

潔　わかってるよ。しかし、美汐はどこへ行ったのかな。知り合いなんて、一人もいないのに。

朋子　あの子ももう年頃だもの。銀座でお買い物でもするつもりなんでしょう。

潔　金もないのに？

潔・朋子が去る。

上野駅。美汐・筑紫野がやってくる。周囲を見回す。

美汐　すごい人ね。

筑紫野　上野駅は、東京でも一二を争うターミナルでございますから。お嬢様、ご気分は？

美汐　するぶる快調。いろんな人が歩いていて、こうして見ているだけでも楽しい。

筑紫野　筑紫野、今、何時？

（懐中時計を出して）午後四時十五分です。

美汐　どうしよう。約束の時間は四時だったのに。筑紫野、上野公園はどっち？
筑紫野　お嬢様、私はお嬢様を連れ戻しに来たんですよ。それなのに、なぜ道案内をしなければならないんです。
美汐　いいから、教えてちょうだい。上野公園はどっち？
筑紫野　知りません。
美汐　筑紫野！
筑紫野　本当に知らないんです。実を申しますと、私も上野に来るのは初めてでして。

そこへ、夏がやってくる。

夏　（筑紫野に）すみません、上野公園はどっちでしょう？
筑紫野　奇遇ですね。私も今、それを知りたいと思っていたんです。

そこへ、金之助がやってくる。筑紫野にぶつかる。

金之助　おっと、すまねえな。（と歩き出す）
筑紫野　（ポケットを探って）ない！（金之助に）こら、待て！

そこへ、林太がやってくる。金之助とすれ違う。

筑紫野　（金之助の腕をつかんで）君、私の財布を返しなさい。
金之助　何の話だ？
筑紫野　とぼけるのはやめなさい。今、私の懐から掏ったでしょう？

金之助　するってえと何か？　あんたは俺がスリだと言いたいわけか？
筑紫野　その通りです。
金之助　バカ野郎！　俺はこう見えても、江戸っ子だ。大阪弁と曲がったことはデーキレーなんだ。
筑紫野　しかし、私の財布は、あなたとぶつかった直後に消えたんですよ。これをどう説明するんです。
美汐　やめなさい、筑紫野。人が見てるわ。
筑紫野　しかし、お嬢様。財布がなければ、何もできない。お腹が空いても、何も食べられないんですよ。
美汐　絶対に取り返しなさい、筑紫野。
夏　（筑紫野に）もう一度、ポケットを調べた方が良いんじゃない？
筑紫野　（ポケットを探って）間違いなく、ありません。
林太　どこかで落としたんじゃねえか？
筑紫野　いいえ、ついさっきまで、ここにありました。（金之助に）さあ、早く返しなさい。
金之助　あくまでも俺が掏ったって言うんだな？　だったら、調べてもらおうじゃねえか。（と床に胡座をかく）
美汐　いやだ。こんな所に座らないで。
金之助　仕方ねえだろう、あんたのお連れさんが騒ぎ立てるんだから。ほら、ボケっとしてねえで、調べろよ。
筑紫野　（金之助の懐や袖を探って）ない。
林太　なんだよ、やっぱり濡れ衣か？
筑紫野　そんなはずはありません！

そこへ、ラヂオがやってくる。林太にぶつかる。

ラヂオ　おっと、すまねえな。（と歩き出す）

林太　（ポケットを探って）ない！（ラヂオに）こら、待て！

ラヂオが走り去る。林太が後を追う。夏・金之助も後を追う。

美汐　何？　何が起きたの？

筑紫野　わかりません。とにかく、後を追いかけましょう。

美汐・筑紫野が去る。

上野公園。ラヂオが走ってくる。ポケットから財布を取り出し、中身を確かめ、笑う。

そこへ、金之助が走ってくる。ラヂオが走り出そうとすると、林太・夏が立ち塞がる。

ラヂオ　なんだ。おまえら、やっぱりグルだったのか。

林太　うるせえ！　黙って、財布を返せ！

ラヂオ　まあまあ、同じスリ同士で喧嘩することもねえだろう？　ここは山分けってことにしようじゃねえか。

金之助　人の獲物を横取りしやがって、ただで済むと思ってるのか？

金之助がラヂオに殴りかかる。ラヂオが避ける。林太がラヂオをつかむ。ラヂオが林太の手を振り払い、走り出す。夏がラヂオの足を蹴る。ラヂオが転ぶ。林太がラヂオの体

をつかみ、起こす。金之助がラヂオに殴りかかる。そこへ、明智が飛び出す。明智が金之助の腕をつかみ、突き飛ばす。金之助が転ぶ。林太が明智に殴りかかる。明智が避ける。林太が転ぶ。

夏　何するのよ！
明智　暴力は良くないな。しかも、三人がかりってのは、かなり卑怯だ。
林太　邪魔するなよ、おっさん！
明智　おっさんだと？　あんまり舐めた口をきくと、（と手帳を出して）集団暴行罪でしょっぴくぞ。
金之助　クソー。（夏・林太に）行くぞ。

金之助・林太・夏が去る。ラヂオが立ち上がって、歩き出す。

明智　待て。
ラヂオ　俺は助けてくれとは言ってねえぞ。
明智　わかってるよ。だから、感謝の言葉はいらない。そのかわり、ポケットの中身を置いていけ。
ラヂオ　何の話だ？
明智　惚けるな。さっきのヤツらから横取りした、財布だ。
ラヂオ　刑事がスリの上前をハネるのか？
明智　刑事？　あ、これか？（と手帳を出して）これはただの手帳だ。
ラヂオ　うわ、きたねえ。あいつら、すっかり信じてたぞ。
明智　早とちりした、あいつらが悪いんだ。いいから、財布を出せ。

ラヂオが歩き出す。明智がラヂオの腕をつかんで、ポケットから財布を取り出す。

ラヂオ　返せ！

明智　何が返せだ。これはおまえの物じゃないだろう。おまえ、十六か？　十七か？悪いことは言わないから、スリなんかやめておけ。ろくな生き方じゃない。

ラヂオ　余計なお世話だ。

明智　我ながらそう思うよ。でも、よく考えてみろ。おまえは他人に胸を張って、俺はスリだって言えるか？　たとえば、好きな女の子に。

ラヂオ　そんなのいねえよ。

明智　たとえばの話さ。おまえの大切な人に、俺はスリだって言えるなら、それはそれで立派だ。俺も口は出さない。でも、もし言えないなら、とっととやめた方がいい。

ラヂオ　おまえの指図は受けねえ。

明智　おまえは刑事が嫌いらしいがな、少なくとも、世の中の役には立ってる。犯人を捕まえれば、被害者にありがとうと言ってもらえる。こいつはなかなか気分がいいぞ。でも、スリは？　誰かにありがとうと言ってもらえるか？

そこへ、美汐・筑紫野がやってくる。

筑紫野　（明智が持っている財布を見て）あ！　私の財布！

明智　あなたが持ち主ですか？

筑紫野　はい。私は、本郷の春日様のお屋敷に勤めております、筑紫野と申します。

明智　（財布を見て）確かに「筑紫野」と書いてある。どうぞ。（と筑紫野に財布を渡して）お礼は彼に言ってください。彼が取り返したんです。

ラヂオ　はあ？

筑紫野　ありがとうございました。助かりました。

明智　（ラヂオに）な？　気分がいいだろう？

ラヂオ　（筑紫野に）俺は別に大したことはしてねえ。

美汐　そんなことはないわ。見ず知らずの人間のために、スリと戦うなんて、とても立派だと思う。良かったら、あなたの名前を教えてくださらない？

ラヂオ　俺か？　俺は小林ラヂオ。

美汐　ラヂオって、ラヂオ放送のラヂオ？

ラヂオ　違う。ラヂオ放送が始まったのは去年だ。俺の方が早い。

美汐　そう言えば、そうね。私は春日美汐と申します。初めまして。（と右手を差し出す）

ラヂオ　いや、こちらこそ。（と美汐の手を握ろうとする）

筑紫野　ラヂオさん、（と財布から一円札を出して）これはほんのわずかですが、感謝の気持ちです。お納めください。

ラヂオ　その金、俺にくれるのか？

明智　筑紫野さん、ラヂオ君はお金がほしくて、あなたを助けたんじゃありませんよ。

筑紫野　なるほど。（ラヂオに）それではせめて、食事をご馳走させてください。この辺りに、レストランはありませんかね？

ラヂオ　ちょっと歩くけど、浅草にいい店があるぜ。俺の知り合いがやってるんだ。

筑紫野　それはいい。（美汐に）急に走り回って、お疲れになったでしょう。レスト

ランで一息入れましょう。（と歩き出す）

美汐　待ちなさい、筑紫野。私はここへ人に会いに来たのよ。

筑紫野　（懐中時計を出して）しかし、今は四時半。約束の時間を三十分も過ぎています。相手の方はもうお帰りになったのでしょう。

明智　帰ってませんよ。ここにいます。

美汐　それじゃ、私に手紙をくださったのは、あなただったんですか？

明智　いきなり呼びつけて、すまなかった。用件に入る前に、一つだけ確認させてほしい。君は、僕の顔に見覚えがないのか？

美汐　ええ。私は前にもあなたに会ってるんですか？

明智　ああ。最後に会ったのは三年前だけど。

筑紫野　それなら、覚えていらっしゃるはずがない。お嬢様は三年前の震災の時、大怪我をなさいましてね。そのせいで、震災より前の記憶が全く残っていないのです。

明智　そうだったのか。

美汐　教えてください。あなたは一体誰なんですか？

明智　僕は明智、私立探偵の明智小五郎だ。

浅草のカフェー新世界。藤子・つるよがやってくる。

藤子　いらっしゃいませ！
ラヂオ　よう。
藤子　なんだ、ラヂオか。大きな声を出して、損しちゃったな。
つるよ　藤子ちゃん、ガッカリするのはまだ早いよ。ラヂオ、そちらの方々は？
ラヂオ　お客さんだよ。ほらほら、さっさと席にご案内しろよ。
藤子　言われなくても、わかってるよ。（筑紫野に）さあさあ、こちらへどうぞ。
筑紫野　はいはい、お邪魔しますよ。（と周囲を見回して）それにしても、随分小さなレストランですね。
藤子　いやだわ、お客さん。表の看板を見なかったんですか？　うちはレストランじゃなくて、カフェーですよ。カフェー新世界。
美汐　ここはカフェーなんですか？　私、一度でいいから、カフェーに来てみたかったの。ラヂオで言っていたのよ。近頃、東京ではカフェーという物が流行っている。カフェーの売り物は、エプロン姿の若くて美しい女給である。
筑紫野　確かにエプロン姿ですね。若くも美しくもないけど。
藤子　失礼しちゃうわ。私、こう見えても、十八ですよ。
ラヂオ　藤子さん、それはさすがに無理があるんじゃねえかな。

藤子　あんたは黙ってな。（筑紫野に）お客さんは信じてくれますよね？
筑紫野　あー、お腹が空いた。すみませんが、メニューを見せていただけませんか？

つるよがメニューとお盆を持ってくる。お盆の上には、水の入ったコップが三つ。

つるよ　はい、どうぞ。（とメニューを差し出す）
筑紫野　（受け取って）ありがとうございます。お嬢様は何になさいますか？
藤子　お嬢様だって。まるで、華族のご令嬢と召使みたい。
ラヂオ　藤子さん、あんた、春日勲って知ってるか？
藤子　知ってるよ。春日財閥の当主だろう？　たった一人で五十も会社を作った、日本一の成金だ。でも、この前の震災で死んだんじゃなかったっけ？
ラヂオ　美汐さんはその人の娘なんだよ。
藤子　そうなの？（美汐に）ごめんなさい。私ったら、失礼なこと言っちゃって。
美汐　別に気にしてません。あなたが仰ったことは、すべて事実ですから。それより、ラヂオ君。あなた、ここにはよく来るの？
つるよ　毎日来てますよ。いろいろ雑用をやってくれてます。もちろん、働いた分のお給金は払ってますけどね。
藤子　掃除をしたら三銭。お客さんを連れてきたら三銭。
明智　（ラヂオに）それで、ここへ連れてきたってわけか。
ラヂオ　それだけじゃねえ。実際、ここの料理はうまいんだ。ライスカレーなんか、絶品だぜ。
美汐　よくわからないな。要するに、ラヂオ君はここの店員なの？
つるよ　違いますよ。ラヂオの本職は別にあるんです。

ラヂオ　つるよさん、その話はまた後で。
美汐　あら、私は聞きたいわ。
つるよ　じゃ、教えてあげますよ。この子は一見、どこにでも転がってる浮浪児ですけどね、実は手先が異常に器用なんです。
ラヂオ　つるよさん、今日もお綺麗ですね。
美汐　（つるよに）手先が器用だと、何ができるんですか？
つるよ　あら、いろいろできるじゃない。たとえば———
ラヂオ　つるよさん！
藤子　（美汐に）たとえば、機械の修理。冗談みたいな話ですけど、ラヂオは、ラヂオを直すのが得意なんです。ねえ、女将さん？
つるよ　まあね。あ、そうそう。（ラヂオに）昨夜、また壊れちまったんだ。直してくれるかい？
ラヂオ　はい、喜んで！（とラヂオの修理を始める）
藤子　（筑紫野に）それで、ご注文は何にします？
筑紫野　（ラヂオ・美汐・明智に）皆さん、ライスカレーでよろしいですか？　よろしいですね？（藤子に）じゃ、ライスカレーを四人前。私のは大盛りで。
藤子　はい、かしこまりました。

藤子・つるよが去る。

明智　（美汐に）それで、さっきの話の続きだけど。
筑紫野　その前に、教えてください。あなたはお嬢様とどういう関係なんですか？
明智　幼なじみですよ。僕は横浜の生まれでしてね。実家のすぐ近くに、美汐さん

美汐　のお父さんのお屋敷があったんです。
明智　私が震災まで住んでいた家ですね？
三階建ての大きな洋館で、庭にはブランコと滑り台と鉄棒があった。君に逆上がりを教えたのは、僕なんだ。
筑紫野　そうだったんですか。
明智　（美汐に）あの屋敷は、震災の時に全焼したそうだね。
美汐　ええ。私の両親はその火事で亡くなりました。私は近所の人に助け出されたんですが、体中に火傷を負ってしまって。意識が戻るまで、三日もかかったそうです。で、目覚めた時には、すべての記憶を失っていた。
明智　写真は？　それも全部、燃えたのか？
美汐　ええ。だから、私の過去を示すものは、何一つ残っていないんです。
筑紫野　（明智に）そんなお嬢様を引き取ってくださったのが、叔父の潔様です。潔様がお住まいになっていた本郷のお屋敷は、幸い被災を免れまして。
美汐　（明智に）叔父はとても優しい人です。私を引き取るだけでなく、父の会社の切り盛りまでしてくれて。本当なら、私がしなければならないのに。
明智　筑紫野さん、あなたが召使になったのは？
筑紫野　お嬢様が本郷のお屋敷に移られて、すぐです。最初のうちはなかなか怪我が治らなくて、ずっと寝たきりでした。今だって、ちょっと無理をすると、すぐに熱が出る。だから、潔様は外に出るなと。
美汐　今日は特別です。だって、明智さんからいただいた手紙の中には、この写真が入っていたんだもの。（と写真を出して、明智に）これは私ですよね？
明智　ああ。君が十歳の時の写真だ。
美汐　この写真はあなたが撮ったんですか？

明智　美汐さん、君に兄弟はいるか？
美汐　いません。私は一人っ子です。
明智　それは嘘だ。
美汐　嘘じゃありません。叔父は確かに――
明智　君は騙されてるんだ。君には兄が一人いる。名前は春日伊知郎。
美汐　本当ですか？
筑紫野　（明智に）信じられません。潔様は、そんなことは一言も――
明智　（美汐に）その写真は、伊知郎が撮ったんだ。伊知郎と僕は子供の頃からの親友だ。僕が君を呼び出したのは、伊知郎に頼まれたからなんだ。
美汐　兄は今、どこにいるんですか？　元気なんですか？
明智　元気だとも。伊知郎は今、アメリカにいる。君にとても会いたがってる。
ラヂオ　できた！　つるよさん、直ったぜ！

ラヂオがラヂオのスイッチを入れる。藤子・つるよがやってくる。
ラヂオ放送。別の場所に、田川がやってくる。

田川　大正十五年十二月十九日。本日の話題は、何と言っても、ポセイドン号でございましょう。アメリカの豪華客船・ポセイドン号が、本日昼過ぎ、横浜港に入港いたしました。この船にはたくさんの著名人が乗っておりまして、その筆頭はロナルド・ハックマン氏。アメリカの航空機製造会社、ボーイング社の社長であります。ハックマン氏の歓迎パーティーは、本日午後六時から、日比谷の帝都ホテルで行われる予定。あ、もうそろそろ始まる時刻ですね。

藤子・つるよ・田川が去る。
本郷の春日邸の玄関。潔・大牟田がやってくる。

潔　驚いたな。わざわざ僕らを迎えに来てくれたのかい？
大牟田　いや、実は先月、クライスラーの新車を買いましてね。ぜひ一度、先輩をお乗せしたいと思ってたんですよ。
潔　悪いが、僕はまだ出られないんだ。実は、二時間ほど前に、美汐が家を出ていってね。
大牟田　なんですって？
潔　すぐに筑紫野に追わせたんだが、今のところ、連絡がないんだ。
大牟田　美汐さんは普通の体じゃないんですよ。出先で倒れでもしたら、どうするんです。
潔　だから、こうして心配してるんじゃないか。
大牟田　警察に連絡しましょう。父の名前を出せば、すぐに動いてくれるはずです。
潔　しかし、これぐらいのことで大臣閣下の名前をお借りするわけには。
大牟田　のんびりしている場合ですか？　美汐さんは春日家の一人娘だ。下手をすると、誘拐されたのかもしれない。
潔　落ち着きたまえ、大牟田君。いくら何でも、誘拐というのは考えすぎだ。

そこへ、朋子がやってくる。

朋子　あなた、美汐さんの居場所がわかったわ。
潔　筑紫野から連絡が来たのか？

朋子　いいえ。別の人から。今、浅草のカフェーにいるんですって。
潔　カフェーだって？　なぜそんないかがわしい所に。
大牟田　美汐さんが自分で行くとは思えませんね。悪いヤツらに騙されて、連れていかれたのかも。先輩、やっぱり、美汐さんは誘拐されたんですよ。
潔　それはまだわからないだろう。
大牟田　なぜそんなに落ち着いていられるんです。とにかく、僕は迎えに行ってきます。
潔　よし、僕も行こう。
大牟田　先輩はパーティーへ行ってください。美汐さんは僕に任せて。（朋子に）それで、カフェーの名前は？
朋子　新世界。浅草六区の北側ですって。
大牟田　わかりました。

大牟田が去る。

朋子　大丈夫かしら。あんなに熱くなっちゃって。
潔　それほど美汐が好きなんだろう。それより、朋子。最近、美汐に手紙か電話はなかったか？
朋子　さあ。でも、どうして？
潔　いや、大牟田君が言っていた誘拐って話。まんざら、ありえない話でもないと思ってね。（と腕時計を見て）まずい。パーティーが始まる。

潔・朋子が去る。

浅草のカフェー新世界。藤子がやってくる。

藤子　お水のお代わりはいかがですか？

筑紫野　あ、お願いします。（明智に）しかし、あなたのお話には驚きました。もしそれが本当なら、伊知郎様は今すぐ日本に帰ってくるべきです。潔様に代わって、亡くなったお父上の跡を継ぐべきです。

藤子　何々？　春日財閥の当主が、また代わるんですか？

ラヂオ　美汐には兄貴がいたんだ。震災の前に事故を起こして、同僚を死なせちまって。それで、親父に勘当されたんだとさ。

筑紫野　ラヂオさん、これは春日家の内部の問題です。よその人に、軽々しく話さないでください。

藤子　あら、ラヂオはよその人じゃないんですか？

美汐　ラヂオ君は、私たちを助けてくれた、恩人です。

ラヂオ　（藤子に）だってさ。ほらほら、あんたは店の前でも掃除してこいよ。

そこへ、つるよがやってくる。

つるよ　あれ？　ラヂオの音が聞こえないね。

藤子　ラヂオ、修理。
ラヂオ　直してやってもいいけど、どうせまたすぐに壊れるぜ。ラヂオってのは精密機械なんだ。こんな所に置いとく方が間違ってる。
藤子　仕方ないだろう？　うちの店は、私とラヂオが売り物なんだから。
筑紫野　藤子さんはともかく、ラヂオが売り物になりますか？　私もたまに聞きますけど、近頃はニュースしかやらないでしょう。だから、つまらなくて。
藤子　歌舞音曲は自粛中なんですよ。天皇陛下のお体がお悪いから。
筑紫野　なるほど。それは致し方ありませんな。
美汐　私はニュースもおもしろいと思う。だって、ここにいるだけで、世界中の出来事がわかるんだもの。私はラヂオが好き。ラヂオが聞きたくて、ここに来る人の気持ち、よくわかる。ラヂオ君、ラヂオを直してあげて。
ラヂオ　わかったよ。（とラヂオの修理を始める）
美汐　（明智に）それで、兄は日本に帰ってくるんですか？

そこへ、大牟田がやってくる。

大牟田　美汐さん、お迎えに来ましたよ。
美汐　大牟田さん！（筑紫野に）あなたが呼んだの？
筑紫野　とんでもない。私はずっとお嬢様のおそばにおりましたでしょう？
大牟田　（美汐に）先輩が心配してましたよ。お体の具合はどうですか？
美汐　見ればわかるでしょう？　私は元気です。迎えに来ていただく必要などありません。
大牟田　しかし、ここから本郷まではかなりの道のりだ。僕のクライスラーでお送り

しますよ。

筑紫野　お嬢様、帰りましょう。ライスカレーも食べたし、伊知郎様の話も聞いたし、もう十分ではありませんか。

美汐　私はもっと話が聞きたい。いいでしょう、明智さん？

大牟田　（明智に）美汐さんを連れ出したのは、君か？

明智　ええ。私立探偵の明智小五郎です。

大牟田　冗談はよしたまえ。明智小五郎は、探偵小説の主人公の名前だ。

明智　よくご存じですね。ひょっとして、あなたも江戸川乱歩のファンですか？

大牟田　二三編読んだだけだ。僕は武者小路実篤先生の作品を愛読している。

明智　あなたとは仲良くなれそうもない。で、美汐さんとはどういう関係です。

美汐　この人は、叔父様の大学時代の後輩です。

明智　つまり、君とは無関係ということか。

大牟田　今はそうかもしれない。が、一年後には、僕らは夫婦になっているはずだ。

美汐　そんなことはありえません。

大牟田　さあ、美汐さん、僕と帰りましょう（と美汐の腕をつかむ）

ラヂオ　おいおい、乱暴はやめろよ。（と大牟田の肩をつかむ）

大牟田　邪魔するな！

大牟田がラヂオの手を振り払う。ラヂオが転がる。大牟田が美汐の腕をつかむ。明智が大牟田の手を振り払う。大牟田が明智に殴りかかる。明智がかわす。大牟田がさらに殴りかかる。明智がかわす。大牟田が勢い余って、転ぶ。

藤子　ちょっと！　店の中で暴れないでよ！

大牟田　（明智に）貴様の目的は何だ。美汐さんを誘拐するつもりか？
明智　僕はここで話をしていただけだ。美汐さんを連れ去ろうとしているのは、君の方だろう。
大牟田　黙れ！

大牟田が明智に殴りかかる。明智がかわして、大牟田の背中を押す。大牟田がよろめいて、ラヂオ（機械）に衝突する。

ラヂオ　あ！　何するんだ、バカ野郎！　（と大牟田を叩く）
大牟田　僕の頭を叩いたな？

大牟田がラヂオに殴りかかる。ラヂオがかわす。大牟田がさらに殴りかかる。ラヂオはかわすが、バランスを崩して、跪く。大牟田がラヂオの腕をつかむ。明智と美汐が走り去る。大牟田が気づいて、走り出す。と、筑紫野が大牟田の腕をつかむ。

筑紫野　大牟田様、ここは出直してください。お嬢様は私が必ず連れ戻しますから。
大牟田　あいつは誘拐犯だ。おまえなんかがかなう相手じゃない。

大牟田が筑紫野を突き飛ばす。筑紫野が倒れる。大牟田が走り出す。と、目の前につるよが立ち塞がる。

つるよ　待ちなよ！（と大牟田に手を出して）約束の物をいただこうか。
大牟田　何の話だ。

つるよ　礼金だよ。春日家の奥様から聞いてないのかい？
ラヂオ　つるよさん、あんたが電話したのか？
つるよ　お家の方々が心配してると思ってね。私は人助けのためにやったのさ。
藤子　でも、無料奉仕はしないんですよね。さすがです。
つるよ　藤子ちゃんは黙ってて。（大牟田に）ほら、さっさと払いなってば。
大牟田　クソー。（とポケットを探って）ん？　財布がない！
藤子　ラヂオ、あんた、やったね？

ラヂオが走り去る。大牟田が後を追う。藤子が筑紫野に歩み寄る。

藤子　女将さん、この人、気を失ってます。
つるよ　ここで寝られちゃ、商売の邪魔だ。奥に運んどきな。
藤子　私一人じゃ運べませんよ。
つるよ　わかった。私も手伝うよ。（と筑紫野を抱えて）重い！
藤子　後で礼金をもらいましょうね。たんまりと。

藤子・つるよが筑紫野を引きずって、去る。
路上。美汐・明智が走ってくる。

美汐　明智さん、どこへ行くんですか？
明智　僕の家さ。伊知郎の話、もっと聞きたいんだろう？
美汐　ええ。でも、筑紫野が……。

そこへ、ラヂオが走ってくる。

ラヂオ　美汐、どこへ行くんだ。
美汐　ラヂオ君、筑紫野は？
ラヂオ　さあな。最後に見た時は、新世界の床で寝てたけど。
美汐　じゃ、筑紫野が起きたら、伝えて。私、明智さんのお屋敷へ行くって。
明智　屋敷じゃない。アパートメントだ。
美汐　アパートメントって、近頃、あちこちにできている、同潤会の？　私、一度でいいから、見てみたかったの。
ラヂオ　ラヂオはもういいのか？
美汐　続きはアパートメントで聞くわ。じゃあね、ラヂオ君。

明智・美汐が去る。

ラヂオ　何がアパートメントだ。あんなの、要するに、西洋長屋じゃねえか。

そこへ、金之助がやってくる。ラヂオが走り出そうとすると、林太が立ち塞がる。

ラヂオ　おまえら、俺を追いかけてきたのか？
金之助　財布を返してもらってなかったからな。
ラヂオ　あれ？　もう一人はどうした？　一番ちっこいの。
林太　夏か？　あいつは別の仕事だ。
金之助　バカ、こんなやつに教えてやる必要はねえ。（ラヂオに）つべこべ言ってね

ラヂオ　えで、財布を出せ。
金之助　残念だったな。あの財布は持ち主に返しちまった。
ラヂオ　だったら、ついさっき手に入れたやつでいい。
林太　おまえら、覗き見してたのか？（林太に）どうだった、俺の腕前は。
金之助　素人にしてはなかなかだったな。
　　バカ、褒める必要もねえ。（ラヂオに）確かに、筋は悪くねえ。しかし、スリにはスリの仁義ってもんがあるんだ。そいつを弁えねえやつは、痛い目に合わせるしかねえ。
ラヂオ　ほらよ。（と財布を金之助に投げて）これで貸し借りはなしだ。あばよ。
　　（と歩き出す）
金之助　（財布の中を見て）空っぽだ。待て！

ラヂオが走り出す。そこへいねがやってきて、ラヂオと擦れ違う。ラヂオが立ち止まり、靴を脱いで、中を見る。

ラヂオ　まさか。
いね　（札束を示して）探し物はこれかい？
ラヂオ　どうやって盗った？
いね　そんなこともわからないのかい？　まだまだひよっ子だね。
ラヂオ　黙れ、ババア！

ラヂオがいねに飛びかかる。いねがかわし、ラヂオの足を引っかける。ラヂオが転ぶ。金之助・林太がラヂオを蹴る。何度も。

いね　　その辺にしときな。

金之助・林太が蹴るのをやめる。ラヂオは突っ伏している。

いね　　あんた、カマイタチのいねって知ってるかい？

ラヂオ　（顔を上げて）カマイタチ？　カワウソの仲間か？

林太　　バカ、カマイタチはイタチじゃねえ。妖怪の一種だ。

金之助　だから、教えるなって言っただろう。

ラヂオ　（いねに）そのカマイタチがどうかしたのか。

いね　　いいかい、小僧。上野浅草界隈でスリがやりたかったら、まずはカマイタチのいねに仁義を通すんだ。わかったね？

ラヂオ　そいつはどこにいるんだ。

いね　　あんたの目の前だよ。今日のところは大目に見てやる。でも、今度、勝手な真似をしたら、一生後悔することになるよ。（と歩き出す）

金之助　わかったな？　小林ラヂオ。

いね・金之助・林太が去る。

ラヂオ　　何がカマイタチだ。そんなやつがいるなんて、誰も教えてくれなかったぞ。

ラヂオが突っ伏す。そこへ、大牟田がやってくる。ラヂオを担いで、去る。

本郷の春日邸の居間。ラヂオがソファーで寝ている。そこへ、朋子がやってくる。ラヂオの鼻を摘む。ラヂオが叫び声を上げて、飛び起きる。

ラヂオ　何しやがる！
朋子　今、何時だと思ってるの？　朝の七時よ。さっさと顔を洗ってきなさい。
ラヂオ　誰だ、あんた。
朋子　洗面所は廊下を出て、突き当たりを右。広いから、迷子にならないようにね。
ラヂオ　俺は誰だと聞いてるんだ！（と立ち上がるが、腹を押さえて、また座る）
朋子　（笑って）昨日は、大分痛い目に遭ったようね。でも、あなた、大牟田君のお財布を掏ったんでしょう？　きっと天罰が下ったのよ。
ラヂオ　あんた、あの大男の知り合いか？
朋子　あら、そういう呼び方は失礼よ。道に倒れていたあなたを、ここまで運んでくれたんだから。（奥に向かって）筑紫野。

そこへ、筑紫野がやってくる。

朋子　潔さんを呼んできて。それから、お紅茶を一つ、お願い。
筑紫野　かしこまりました。

筑紫野が去る。

朋子　私は春日朋子。美汐の叔母よ。でも、叔母さんなんて呼ばないでね。まだ若いんだから。

ラヂオ　叔母さん、ここは美汐の家か？

朋子　美汐じゃなくて、私の家。

ラヂオ　なぜ俺をここに連れてきた。俺に何の用だ。

朋子　あなたなら、知ってるんじゃないかと思ってね。美汐の居場所を。

ラヂオ　あいつ、昨夜は帰ってこなかったのか？

朋子　夜中の十二時に電話があったわ。明智って名乗る男から。美汐は預かった。返してほしければ、金を用意しろって。ねえ、美汐はどこ？　知っているなら、答えなさい。

ラヂオ　俺が知るわけねえだろう。

そこへ、潔・大牟田がやってくる。

大牟田　そんなはずはない。おまえは美汐さんを追いかけて、あの店から出ていった。あの後、どこかで会ったはずだ。

ラヂオ　それを聞いてどうする。また連れ戻しに行くのか？

大牟田　美汐さんは、僕の妻になる人だ。僕には彼女を守る責任がある。

ラヂオ　悪いが、俺は何も聞いてねえ。勝手に探してくれ。

大牟田　貴様、惚けると承知しないぞ！

潔　まあまあ、大きな声を出さないで。ラヂオ君、君に一つ、見せたい物があるんだ。
ラヂオ　あんた、美汐の叔父さんか？
潔　ああ、自己紹介がまだだったね。僕は春日潔だ。よろしく。（と右手を差し出す）
ラヂオ　で、俺に見せたい物って？
潔　これだ。（と写真を出して）昨日、明智と名乗ったのは、この男だったかい？ラヂオ　（写真を見て）ああ、たぶん、そうだろう。
大牟田　（潔に）ほらね？　僕の言った通りだったでしょう？
朋子　（潔に）筑紫野も間違いないって言ってたし、これで答えは出たようね。
ラヂオ　明智ってのは偽名なんだろう？　本名はなんて言うんだ？
朋子　宗像修治。伊知郎君を殺した男よ。
大牟田　朋子さん、そこまで話していいんですか？
潔　構わないだろう。僕らにはラヂオ君の協力が必要なんだから。
ラヂオ　（朋子に）今、なんて言った？　伊知郎を殺した？
朋子　宗像は、伊知郎君がアメリカにいるって言ったそうね。それはとんでもないデタラメ。伊知郎君は三年も前に亡くなってるの。
潔　一体どういうことだ。
ラヂオ　春日家の経営する会社の中に、春日重工というのがあってね。伊知郎と宗像は、そこの研究所で新製品の開発をしていた。震災の半月ほど前だったかな。実験中に爆発事故が発生して、研究所が全焼。焼け跡からは、伊知郎の遺体が発見された。
潔　宗像は？

潔　消えた。警察は、事故の責任は宗像にあったのではないかとして、行方を追った。が、捕まらなかった。どうやら、国外へ逃げたらしい。美汐は、自分の兄が亡くなったことに強い衝撃を受けていた。震災で記憶を失ったことは聞いているね？

ラヂオ　ああ。

潔　正直、僕は安心した。これ以上、美汐が苦しまなくて済むと。だから、美汐には伊知郎の話をしなかった。君には兄弟はいない、一人っ子だと教えたんだ。

ラヂオ　宗像はなぜ日本に帰ってきたんだ？

朋子　決まってるでしょう？　お金よ。素性を隠して、逃げ回っていたら、働くわけにも行かないし。

ラヂオ　それで、美汐を誘拐したってわけか。

潔　春日家には多少の資産がある。金なら、いくら出しても、構わないんだ。しかし、それで美汐が無事に帰ってくる保証はない。美汐の身に何かあったら、亡くなった兄に顔向けができない。

ラヂオ　そんなに心配だったら、警察に知らせればいいじゃねえか。

潔　宗像に言われたよ。警察に知らせたら、美汐の命はないと。ラヂオ君、頼む。僕らに力を貸してくれ。

大牟田　無駄ですよ。こいつは何も聞いてないんだから。

そこへ、筑紫野がやってくる。手にはカップを載せたトレイ。

筑紫野　お待たせしました。（とカップをラヂオに渡そうとする）

朋子　あ、それは私の。（とカップを取る）
ラヂオ　高そうなカップだな。
筑紫野　ドイツのマイセン。ワンセットで五百円です。
ラヂオ　五百円？　嘘だろう？
潔　カップの値段はどうでもいい。僕は美汐の話をしてるんだ。
ラヂオ　どこへ行くかは聞いてない。でも、大体の見当はつくぜ。なんだったら、これから探しに行ってやろうか？
潔　本当か？
大牟田　（ラヂオに）怪しいな。なぜ最初にそう言わなかったんだ。
ラヂオ　決まってるだろう？　あんたたちが信用できなかったからさ。
大牟田　何だと？
筑紫野　大牟田様、落ち着いてください。（と大牟田の腕をつかむ）
潔　（ラヂオに）僕らに力を貸してくれるんだね？
ラヂオ　そのかわり、礼金はいただくぜ。
大牟田　貴様、美汐さんの命より、金が大事なのか？
朋子　（ラヂオに）いくらほしいの？
ラヂオ　そうだな。（とカップを差して）そいつがワンセット買えるぐらいかな。
大牟田　ふざけるな！　少しは相場を考えろ！
筑紫野　大牟田様！（と大牟田の腕をつかむ）
ラヂオ　（大牟田に）あんたの大事なお嬢様は、五百円より安いっていうのか？
朋子　大牟田君、あなたの負けよ。五百円なら、安い買い物じゃない。
潔　（ラヂオに金を差し出して）とりあえず、手付けの五十円だ。無理はしなくていい。何かわかったら、すぐに知らせてくれ。

ラヂオ　（受け取って）了解。

潔・朋子・大牟田・筑紫野が去る。
日暮里の商家の裏口。コテツがやってくる。

コテツ　兄ちゃん！
ラヂオ　悪かったな、いきなり呼び出して。ババアにイヤミを言われなかったか？
コテツ　「もしラヂオが戻りたいって言っても、私は許さないからね」って。
ラヂオ　バカ野郎。こんな家、二度と戻ってやるもんか。
コテツ　どうしたの？　二日続けて、来るなんて。
ラヂオ　おまえに渡したいものがあってな。
コテツ　もしかして、『月世界旅行』？
ラヂオ　いけね。今度、来る時、持ってくるって約束したんだっけ。
コテツ　いいよ、いいよ。いつか、お金ができた時で。
ラヂオ　金ならたっぷりあるんだよ。ほら、見ろ。（と金を見せる）
コテツ　すげえ。全部で五十円もある。
ラヂオ　驚くのはまだ早い。実は今度、デカイ仕事をすることになってな。そいつがうまく行ったら、あと四百五十円入るんだ。この金と足したら？
コテツ　ちょうど五百円だ！
ラヂオ　ご明算！　だから、もう一年も待つことはねえ。あと三日。三日以内に、おまえを迎え来る。
コテツ　本当だよね？　俺をからかってるんじゃないよね？
ラヂオ　バカ。たまには、俺を信用しろ。（と金を差し出して）この金はおまえにや

コテツ　る。『月世界旅行』でも何でも、好きな本を買え。
ラヂオ　でも、それを遣っちゃったら、お金が足りなくなるよ。
コテツ　そう言えば、そうだな。
ラヂオ　本は後でいいよ。今は番頭さんに借りたのがあるし。
コテツ　わかった。今度来る時は、きっちり五百円にして、持ってくるぜ。
ラヂオ　兄ちゃんは今、レストランで働いてるんだよね？　今度の仕事もそこ？
コテツ　いや、違う。
ラヂオ　危ない仕事じゃないよね？　兄ちゃん、死んだりしないよね？
コテツ　バカ、ただの人助けだ。余計な心配するな。
ラヂオ　必ず迎えに来てくれるよね？
コテツ　三日以内に、必ずだ。じゃあな。（と歩き出すが、すぐに立ち止まって）なあ、コテツ。『月世界旅行』って、どんな話なんだ？
ラヂオ　月の世界に旅行に行く話。
コテツ　それぐらいは題名だけでわかる。おまえ、月に行きたいのか？
ラヂオ　行きたいよ。俺、お月様が好きなんだ。お月様が出てると、夜、一人でも淋しくないし。行ってみたいなあ、月の世界。
コテツ　俺は東京だけで腹一杯だよ。（と歩き出す）
ラヂオ　兄ちゃん！
コテツ　何だよ。
ラヂオ　待ってるからね。俺、ずっと待ってるからね。
コテツ　わかってるよ。

コテツが走り去る。

浅草のカフェー新世界。藤子・つるよがやってくる。

藤子　あれ？　今日は一人かい？
ラヂオ　藤子さん、何でもいいから、飯を食わせてくれ。朝から何も食ってねえんだ。
つるよ　銭は持ってるんだろうね？
ラヂオ　はいはい。じゃ、先に昨日の給金をくれ。客を三人連れてきて、九銭。ラヂオを二回直して、六銭。合計して、十五銭だ。
つるよ　十五銭じゃない、九銭だ。ラヂオは直ってないんだから。
ラヂオ　わかった。九銭でいい。その九銭で、握り飯か何か、作ってくれ。
つるよ　お握りはラヂオを直してからだよ。
ラヂオ　食うのが先だ。
つるよ　直すのが先だよ。
ラヂオ　クソー。直せばいいんだろう？　直せば。（とラヂオの修理を始める）
藤子　ご飯も食べずに、何をしてたんだい？　本職の方かい？
ラヂオ　違う。昨日、ここに明智ってやつが来ただろう？　あいつの家を探してたんだ。
藤子　あの人、どの辺に住んでるの？
ラヂオ　それがわからねえんだ。あいつは同潤会のアパートメントだって言ってたの

に。

つるよ　だったら、中之郷だろう？

藤子　女将さん、同潤会のアパートメントは他にもあるんですよ。

ラヂオ　知ってるよ、柳島だろう？　両方とも調べたけど、明智の部屋は見つからなかった。

藤子　他のは？

ラヂオ　え？　まだ他にもあるのか？

藤子　えーと、どこだったかな。あら、ラヂオが直ったみたい。

ラヂオ放送。別の場所に、田川がやってくる。

田川　最近、東京市内のあちこちに、同潤会のアパートメントができていますね。同潤会というのは、震災後の帝都復興を目的として、大正十三年に発足した団体であります。その主な活動は、鉄筋コンクリート造りのアパートメントの建設。大正十五年十二月現在で、三つのアパートメントが完成しております。すなわち、中之郷、柳島、そして———

田川が去る。

藤子　あら、また壊れた。

ラヂオ　なんだよ、あとちょっとでわかったのに。

つるよ　藤子ちゃん、最後の一つ、覚えてないの？

藤子　思い出した、青山です。いや、清砂通りだったかな？

ラヂオ　どっちなんだよ。一つに決めてくれよ。

そこへ、明智がやってくる。

明智　こんにちは。
藤子　あら、明智さん！　うれしい！　また来てくれたの？
明智　いや、昨日、代金を払わずに帰ったから。
つるよ　そのためにわざわざ？
明智　いや、これから精養軒で人と会う約束がありましてね。そのついでですよ。
（と財布を出して）全部でいくらになりますか？
藤子　お代はもう済んでますよ。昨日、筑紫野さんが払っていきましたから。
つるよ　なぜ正直に言うんだい。黙ってれば、わからないのに。
明智　女将さん、金儲けばっかり考えてると、いつかは手が後ろに周りますよ。
ラヂオ　こら、明智！
明智　何だ、小林少年。
ラヂオ　美汐は今、どこにいる。
明智　俺の家だけど、それがどうかしたか。
藤子　まさか、昨夜はあのお嬢様と、二人っきり？　いやだ、妬けちゃう！
明智　おかしな想像はしないでください。ちゃんと別々の布団で寝ましたよ。
藤子　そんな嘘、誰が信じると思う？
ラヂオ　嘘じゃねえよ。明智が美汐に手を出すわけがねえ。なんたって、大事な人質だからな。
明智　人質？　一体何の話だ。

ラヂオ　隠しても無駄だ。話は美汐の叔父さんから聞いた。
明智　春日潔か。一応、忠告しておくが、あいつの言うことは真に受けない方がいい。どうしようもない嘘つきだから。
ラヂオ　嘘つきはあんたの方だろう。俺はもう何もかも知ってるんだ。
明智　たとえば。
ラヂオ　あんたの本名は宗像修治。三年前に伊知郎を殺した、殺人犯だ。
藤子　殺人犯？　この人が？
明智　ラヂオ、おまえは何もわかってない。怪我をしたくなかったら、俺たちには関わるな。

明智が歩き出す。ラヂオが明智にぶつかる。

明智　おい、返せ。
ラヂオ　返してほしかったら、俺の質問に答えろ。あんたの家はどこにある。

明智がラヂオの腕をつかみ、捻り上げる。

明智　スリの分際で、偉そうな口を叩くな。
つるよ　ラヂオ、諦めな。あんたに勝てるわけないよ。
ラヂオ　クソー。（と財布を差し出す）
明智　（受け取って）俺と美汐のことは忘れろ。わかったな？

明智が去る。

ラヂオ　人殺しの分際で、偉そうな口を叩くな。（とマッチを出す）
藤子　そのマッチは？　財布と一緒に掏ったの？
ラヂオ　（マッチを見て）カフェー百軒店。
つるよ　百軒店？　近頃、渋谷に出来た商店街だね。
藤子　（ラヂオに）渋谷の手前は青山。あの人の家は青山だよ。
ラヂオ　遠いなあ。仕方ねえ。奮発して、市電に乗るか。（と走り出す）
つるよ　ラヂオ！　修理は？

ラヂオがラヂオを叩いて、走り去る。

つるよ　叩いただけで、直るもんか。
藤子　（スピーカーに耳を当てて）女将さん、直ってます。

ラヂオ放送。別の場所に、田川がやってくる。

田川　東京市民の足と言えば、東京市電。大正十五年現在、一日の乗客数は百万人を突破すると言われております。確かに、市電は便利ですね。一枚七銭の乗換切符を買えば、どこまででも行けます。たとえば、浅草から青山まで行く場合。まずは雷門で蔵前方面へ行く電車に乗る。次に浅草橋で万世橋方面へ行く電車に乗り換える。さらに三宅坂で赤坂方面へ行く電車に乗り換える。そして明治神宮で降りると、そこは表参道。

藤子・つるよ・田川が去る。
青山のアパートの前。ラヂオがやってくる。後を追って、夏がやってくる。

夏　待ちなよ。
ラヂオ　あれ？　なんでおまえがここにいるんだ？
夏　そう言うあんたこそ、このアパートメントに何の用？
ラヂオ　仕事だよ。大金持ちの旦那様に、人探しを頼まれてな。
夏　まさか、昨日のお嬢様じゃないよね？
ラヂオ　いや、そのまさかだ。俺の推理によれば、美汐はこのアパートメントにいる。明智って野郎の部屋にな。
夏　お嬢様を見つけて、連れ戻せって言われたのかい？
ラヂオ　まあな。で、おまえの方は？　おまえの狙いも美汐か？
夏　バカ。商売敵に教えるわけないだろう。
ラヂオ　バカはどっちだ。いいか、夏。美汐は明智に誘拐されたんだ。誘拐は、スリとは比較にならねえほどの大罪だ。見過ごすわけには行かねえ。おまえが何をしようとしてるか知らねえが、美汐は連れて帰るぜ。
夏　そいつは無理だよ。お嬢様は部屋から出られない。
ラヂオ　なんで。
夏　部屋には鍵がかかってる。二時間ぐらい前に、部屋の主が出かけてね。その時、かけていったんだ。
ラヂオ　鍵は中から開けられるだろう。
夏　さっき、試しに行ってみた。扉を叩いて、「郵便です」って。でも、うんとすんとも言わなかった。たぶん、薬で眠らされたか、縛られて押し入れに放

り込まれたんだよ。
ラヂオ　クソー。明智の部屋はどこだ。
夏　教えてほしいかい？
ラヂオ　ああ。
夏　いいかい、ラヂオ。私らの狙いは身代金だ。あんたがお嬢さんを助け出したら、計画がパーになる。教えてなんか、やるもんか。
ラヂオ　（アパートを見て）あっ！　美汐！
夏　え？（とアパートを見る）
ラヂオ　何が部屋から出られないだ。一人で逃げ出したじゃねえか。
夏　どこだよ、お嬢さんは。
ラヂオ　（指差して）ほら、二階の一番右だ。あ、見えなくなった。
夏　おかしいね。明智の部屋は三階の一番左だよ。
ラヂオ　出口を探して、走り回ってるんだろう。とにかく、急いで後を追わないと。
夏　おっと、あんたはここまでだ。お嬢様は、私が追う。ついてきたら、また昨日みたいに、ボコボコにするからね。

夏が走り去る。

ラヂオ　三階の一番左か。夏、ありがとさん。

青山のアパートの明智の部屋の前。

ラヂオ　（表札を読んで）「明智小五郎」。驚いたな。本当に明智って名前で借りてやがる。江戸川乱歩に見つかったら、どうするつもりだ。（と扉をノックして）美汐！　俺だ！　ラヂオだ！（と耳をすまして）反応なしか。だったら、次の手だ。

ラヂオがポケットから針金を出し、鍵穴に差し込む。と、扉が開いて、ラヂオの頭に当たる。中から、美汐が出てくる。

美汐　ラヂオ君！　ここで何してるの？

ラヂオ　必死で痛みを堪えてる。

美汐　今、凄い音がしたものね。これからは、扉から離れた所に立った方がいいわ。

ラヂオ　おまえなあ、「ごめん、痛かった？」ぐらい言えねえのか？　あれ？　おまえ、縄は？

美汐　縄って？

ラヂオ　そうか、自力で解いたんだな？　全く逞しいお嬢様だぜ。よし、今のうちに、外へ出ろ。

美汐　それは駄目。明智さんが帰ってくるまで、ここにいなきゃいけないの。
ラヂオ　逃げたら殺すって脅されたのか？
美汐　脅されてなんかいません。（と周囲を見回して）人に見られたら、まずいわ。とりあえず、中に入って。（とラヂオを部屋の中に引っ張り込む）
ラヂオ　……お邪魔します。
美汐　外は寒かったでしょう？　珈琲でも淹れてあげようか？
ラヂオ　何、暢気なこと言ってるんだ。おまえ、自分の立場がわかってるのか？
美汐　立場って？
ラヂオ　おまえは明智に誘拐されたんだよ。
美汐　あら、よく知ってるわね。
ラヂオ　だったら、珈琲なんか淹れてる場合じゃねえだろう。（と美汐の腕をつかんで）さあ、行くぞ。
美汐　（ラヂオの手を振り払って）私の珈琲は飲めないって言うの？
ラヂオ　そうは言わねえけど。
美汐　だったら、飲んでよ。私ね、昨夜、明智さんに、珈琲の淹れ方を習ったの。誰かに淹れてあげたくて、ウズウズしてたのよ。
ラヂオ　わかった、わかった。屋敷に帰ったら、好きなだけで淹れさせてやる。
美汐　だから、私は帰るわけには行かないの。明智さんの計画がうまく行くまで。
ラヂオ　どういうことだ。おまえ、明智に協力してるのか？
美汐　そうよ。明智さんは今、上野の精養軒へ行ってるの。叔父様と取引するために。
ラヂオ　おまえを無事に返すかわりに、金を寄越せっていうんだろう？
美汐　全然違う。明智さんがほしいのは、お金なんかじゃない。

ラヂオ　おまえはあいつに騙されてるんだよ。あいつの名前は明智小五郎じゃねえ。本名は宗像修治。三年前に人を殺して、外国に逃げた男なんだ。

美汐　嘘よ。明智さんがそんなことするわけない。

ラヂオ　なぜそう言い切れるんだ。おまえは明智のことを何も知らねえだろう？

美汐　それはそうだけど。じゃ、明智さんは誰を殺したの？　別れた恋人？

ラヂオ　それは、おまえには関係ねえ。

美汐　言えないの？　やっぱり、嘘なのね？

ラヂオ　そうじゃねえ。この話は、おまえの叔父さんから聞いたんだ。

美汐　私は明智さんを信じる。だって、あの人はお兄様の親友なんだもの。私を騙すはずない。

ラヂオ　でも、所詮は赤の他人だ。俺だったら、血のつながってる方を信じるぜ。

美汐　叔父様はお兄様のことを隠してたのよ。そんな人がなぜ信じられるの？

ラヂオ　だったら、明智はどうなんだ。おまえに、偽名を使ったじゃねえか。

美汐　それはそうかもしれないけど、あの人は私に大切な物をくれた。

ラヂオ　大切な物って？

美汐　思い出。私はね、子供の頃、海が好きだったの。夏になると、お兄様と二人で江ノ島に行って、日が暮れるまで泳いだの。それから、クリスマスも好きだった。乾杯をして、ケーキを食べて、最後に賛美歌を歌ったの。お兄様と二人で。

ラヂオ　おまえ、記憶が戻ったのか？

美汐　いいえ。今のはみんな、明智さんから聞いた話。私は一つも覚えてなかったけど、聞いてるうちに涙が出てきた。私は幸せだったの。確かに、震災ですべてを失ったかもしれない。でも、それまではいつもそばにお兄様がいた。

ラヂオ　私は一人じゃなかったのよ。
美汐　今だって、一人じゃねえだろう。叔父さんも叔母さんもいるし。
叔父様には感謝してるわ。身寄りのない私を引き取ってくれたんだから。でも、外へは一歩も出してくれなかった。体が良くなるまで、我慢しなさいって。おかげで、私の友達はラヂオだけ。ラヂオを聞くことだけが楽しみだった。
ラヂオ　だから、昨日はあんなにはしゃいでたのか。
美汐　そうよ。だって、見るもの聞くもの、すべてが初めてだったんだもの。
ラヂオ　よし、俺と一緒に来い。
美汐　わからない人ね。私は明智さんを待ってなきゃいけないの。
ラヂオ　また戻ってくればいいだろう？　ほんの一時間だけ、散歩だ。（と美汐の手をつかんで）いいから、来いって。

ラヂオが美汐の手を引っ張って、外へ飛び出す。
愛宕山のラジオ局の前。

美汐　（周囲を見回して）ここは？
ラヂオ　おまえ、鉄道唱歌は歌えるか？
美汐　前にラヂオで聞いたことがある。（歌う）「汽笛一聲新橋を」。
二人　「はや我汽車は離れたり、愛宕の山に入りのこる、月を旅路の友として」
ラヂオ　下手クソ。
美汐　自分はどうなのよ。
ラヂオ　いや、歌のうまい下手はどうでもいいんだ。歌詞の中に出てくる愛宕山。そ

れがここなんだよ。

美汐　そうなの？　山にしては、あんまり高くないけど。

ラヂオ　見ろよ。（と前方を指差す）

美汐　（見て）あれは何？

ラヂオ　ＪＯＡＫ。東京放送局の鉄塔だ。おまえがいつも聞いてるラヂオの電波は、あそこから飛んでくるんだ。

美汐　あの鉄塔から？

ラヂオ　どうだ？　ついてきて、良かっただろう？

美汐　ええ。ありがとう、ラヂオ君。

ラヂオ　礼はいらねえ。その代わり、叔父さんの屋敷に帰るんだ。

美汐　明智さんの部屋に戻るって約束したはずよ。

ラヂオ　悪いが、その約束は守れねえ。いいか、美汐。明智が金を手に入れたら、おまえは邪魔になる。下手をしたら、おまえを殺そうとするかもしれねえ。

美汐　そんなこと、するわけない。あの人は優しい人よ。

ラヂオ　わからねえヤツだな。優しい人が親友を殺すか？

美汐　親友って、誰よ。

ラヂオ　いや、今のは、その……。

美汐　教えて、ラヂオ君。親友って、誰？

ラヂオ　美汐、落ち着いて、聞いてくれ。おまえの兄貴は、もうこの世にはいねえんだ。震災の前に、明智に――――

美汐　嘘よ……。嘘よ！

そこへ、潔・大牟田がやってくる。

潔　美汐、散歩はおしまいだ。
美汐　叔父様！　なぜここに？　精養軒には行かなかったんですか？
潔　僕は、宗像の言いなりにはならない。ラヂオ君、ご苦労だった。やっぱり、君に頼んで、正解だったよ。
美汐　（ラヂオに）あなたが叔父様をここに呼んだの？
ラヂオ　違う。（潔に）朝からずっとつけてたのか？
大牟田　あっちこっち走り回りやがって。今日一日で、一貫は痩せたぞ。
潔　（ラヂオに）本当はもっと早く声をかけたかったんだけどね。下手に騒がれたら、人目につくし。でも、愛宕山なら、その心配もない。いい場所を選んでくれたよ。
ラヂオ　俺を騙したのか？
潔　騙してなんかいない。約束通り、謝礼は払うよ。ほら、残りの四百五十円だ。（とラヂオに封筒を差し出す）
美汐　（ラヂオに）あなた、お金のために私を連れ戻そうとしたの？
大牟田　決まってるじゃないですか。こいつは浮浪児ですよ。震災で親を亡くして、上野の山で暮らしてるんだ。金のためなら、何だってする。昨日なんか、僕の――――
ラヂオ　うるせえ！
潔　（大牟田に）その話はいいじゃないか。こうして美汐を連れ戻してくれたんだし。
大牟田　そうですね。美汐さん、帰りましょう。（と美汐の腕をつかむ）
美汐　（大牟田の手を振り払って）嫌よ！　私は帰らない！

大牟田　わがままを言うのはやめてください。さあ、美汐さん。（と美汐を腕をつかむ）

美汐　嫌よ！　放して！

ラヂオが大牟田に飛びかかる。大牟田がラヂオの手を振り払い、殴りかかる。ラヂオが避ける。大牟田がラヂオの体をつかむ。

潔　やめたまえ、大牟田君。

大牟田　しかし、先輩――

潔　ラヂオ君、なぜ今頃になって、僕らの邪魔をするんだ。

ラヂオ　俺はただ、美汐を助けたくて……。

潔　美汐はもう助かったんだよ。君の仕事はもう終わったんだ。今のはなかったことにしよう。受け取りたまえ。（と封筒をラヂオに押しつけて）美汐、帰ろう。

美汐がラヂオを見つめる。潔が美汐を促す。美汐・潔・大牟田が去る。

浅草のカフェー新世界。藤子・つるよがやってくる。

藤子　どうだった？　明智さんの家は見つかったかい？

つるよ　（ラヂオに）どうしたんだよ、怖い顔をして。

ラヂオ　何でもねえ。

つるよ　あら、いやだ。あんた、泣いてるのかい？

ラヂオ　泣いてねえ。いいから、俺のことはほっといてくれ！

そこへ、金之助・夏・林太がやってくる。

藤子　いらっしゃいませ。
金之助　俺たちは客じゃねえ。（ラヂオに近寄って）来い。
ラヂオ　また、おまえらか。目障りだ。とっと失せろ！

林太がラヂオの肩をつかむ。ラヂオが立ち上がり、林太に殴りかかる。林太が避ける。金之助がラヂオを殴る。ラヂオが倒れる。林太がラヂオを蹴る。何度も。

藤子　やめなよ！　死んじまうよ！
金之助　林太！

林太が蹴るのをやめる。金之助・夏がラヂオの体を起こす。林太がラヂオを背負う。

金之助　邪魔したな。

金之助・夏、そしてラヂオを背負った林太が去る。

藤子　何者なんでしょうね、あの子たち。
つるよ　いつかはこうなると思ってたよ。ありゃ、いねさんの所の若い衆だ。
藤子　いねさんて？
つるよ　知らないのかい？　カマイタチのいねだよ。あの人に睨まれたら、無事じゃ

すまない。ラヂオのヤツ、可哀相に。

藤子・つるよが去る。

浅草の古着屋の倉庫。金之助・夏、そしてラヂオを背負った林太がやってくる。林太がラヂオを椅子の上に下ろす。そこへ、いねがやってくる。

金之助　（ラヂオの頬を叩いて）起きろ。

ラヂオ　（目を開けて）ここは？

いね　久留米古着店。私がやってる店だよ。

ラヂオ　古着屋に用はねえ。服なんざ、これ一枚あれば十分だ。

いね　この店は世を忍ぶ仮の姿。スリがスリって看板を出すわけには行かないからね。

ラヂオ　あんたの講釈に付き合ってる暇はねえ。俺は忙しいんだ。（と立ち上がる）

林太　誰が帰っていいと言った！（とラヂオを突き飛ばし、椅子に座らせる）

いね　（ラヂオに）昨日、あんたに言ったよね？　今度、勝手な真似をしたら、一生後悔することになるって。

ラヂオ　覚えてねえな。

林太　しらばっくれるな、バカ野郎！

いね　林太、おまえは口出しするんじゃないよ。（ラヂオに）あんたは私の忠告を無視した。おかげで、身代金の横取りはパーだよ。さて、この落とし前はどう付けてくれる？

ラヂオ　落とし前？
いね　いいかい、小僧。人が集まりゃ、社会ができる。社会ができれば、決まりが必要になる。私たちスリだって同じさ。スリにはスリの決まりってもんがある。知りませんでしたなんて言い訳は通用しないんだよ。
ラヂオ　俺はただ、あのお嬢様が可哀相だと思っただけで。
いね　（笑って）可哀相だって？　じゃ、この金は何だい？（とラヂオのポケットから封筒を取り出す）
ラヂオ　返せ！　それは俺の金だ！
いね　そうだろうとも。あんたはこの金でお嬢様を売った。私らと同じ穴の狢じゃないか。それとも、お姫様を救い出す、白馬の騎士にでもなったつもりかい？（三人に）おまえたち。

金之助・林太がラヂオを押さえつける。夏が出刃包丁を持ってきて、いねに渡す。

いね　悪い子にはお仕置きだ。二度とスリができなくしてやるよ。
ラヂオ　やめろ。
いね　残念だよ、小僧。あんたはなかなか筋が良かった。みっちり修業すれば、東京一のスリになれたかもしれないのに。
ラヂオ　やめてくれ！（と暴れる）
金之助　暴れるな。じっとしてれば、すぐに終わる。
ラヂオ　頼むから、やめてくれ！　スリができなくなったら、俺は生きていけねえ。
夏　コテツを迎えにも行けねえ。
　誰よ、コテツって。

ラヂオ　弟だ。俺とコテツは、震災で親を亡くして、日暮里の親戚の家に引き取られたんだ。ところが、そこのババアが鬼みてえな女で、俺たちを牛や馬みたいに扱き使いやがって。もちろん、辛抱したさ。でも、二年が限界だった。

夏　それで、弟を置いて、逃げ出したの？

ラヂオ　俺にはコテツを食わせられねえ。おまけに、親の借金も残ってたし。五百円だ。五百円貯めて、コテツを迎えに行く。俺はそのためにスリをしてるんだ。

いね　俺が迎えに行かなかったら、コテツは一生、あそこで扱き使われるんだ。

ラヂオ　そんな話をして、私が同情するとでも思ったのかい？

いね　え？

ラヂオ　もっとひどい話はいくらでも転がってるよ。あんたの弟には住む家がある。

いね　まだマシな方さ。

ラヂオ　それはそうかもしれねえけど。

いね　何、たかが人差し指一本だ。スリはできなくなるだろうけど、他の仕事に差し障りはないさ。じゃ、行くよ。

いねが出刃包丁を振りかぶる。ラヂオが悲鳴をあげる。そこへ、明智が飛び出す。

明智　待てよ。その指、俺が買い取ろう。

いね　誰だい、あんた。

金之助　母ちゃん、こいつが明智だよ。春日の娘を誘拐した。

明智　僕は誘拐なんかしてない。あれは、春日潔を騙すための狂言だ。まあ、そいつのおかげで失敗したがね。（とラヂオを指差す）

いね　（金之助に）おまえたち、つけられたね？

明智　彼らのことは責めないでくれ。僕はどうしてもあんたに会いたかったんだ。で、その指だけど。

いね　こんな小汚い指にいくら出すって言うんだい。

明智　千円。それから、あんたたちのスリの腕も買いたい。そっちも一人頭千円でどうだ。

金之助　てことは、全部で四千円か。

林太　五千円だよ。どうせ、自分を勘定しなかったんだろう？

夏　母ちゃん、悪い話じゃないんじゃない？

いね　ああ。（明智に）でも、あんたがそんな大金を持ってるようには見えないね。

明智　確かに、今は持ってない。

いね　だったら、取引は終了だ。（と出刃包丁を振り上げる）

明智　いいのか？　みすみす儲け話をフイにして。この仕事がうまく行ったら、俺は春日財閥の全財産を手に入れる。あんたたちの働き次第で、多少の色はつけてもいいんだぜ。

いね　とりあえず、話を聞こうじゃないか。

明智　引き受けてくれるのか？

いね　それは聞いてからだよ。ただし、いくら金を積まれても、殺しはお断りだ。

明智　スリにスリ以外の仕事を頼むもんか。ぜひとも、あんたたちに掏ってほしいものがあるんだ。

金之助　それは何だ。

明智　設計図だ。

いね・明智・金之助・夏・林太・ラヂオが去る。

本郷の春日邸の居間。潔・美汐・大牟田がやってくる。反対側から、筑紫野がやってくる。

筑紫野　お嬢様！　ご無事でしたか！
潔　紅茶を三つ、持ってきてくれ。
筑紫野　かしこまりました。

筑紫野が去る。

美汐　叔父様、私は部屋に戻ります。
潔　気分でも悪いのか？　それなら、医者を呼ぶけど。
美汐　その必要はありません。失礼します。（と歩き出す）
潔　美汐、君に隠し事をしていたことは謝る。確かに、君には伊知郎という名前の兄がいた。しかし、震災の前に亡くなったんだ。
美汐　いいえ、兄は生きています。
潔　僕の言うことより、宗像の言うことを信じるのか？
美汐　あの人は私にすべてを話してくれました。三年前の事故のことも。叔父様が今、しようとしていることも。
大牟田　先輩がしようとしていること？
美汐　叔父様は、兄が作った物を、勝手に売ろうとしているんです。
潔　あれはうちの会社の物だ。誰に売ろうと、文句を言われる筋合いはない。
大牟田　ちょっと待ってください。先輩は一体何を売ろうとしているんです。

そこへ、朋子がやってくる。

朋子　設計図よ。伊知郎君が開発していた新製品の。

大牟田　新製品って、車ですか？　船ですか？

潔　朋子、その話はまた今度にしよう。

大牟田　いや、今、ここで話してください。僕は先輩が悪事を働くような人だとは思わない。しかし、美汐さんの疑いは晴らしておいた方がいい。

朋子　伊知郎君はね、宗像君と二人で、飛行機の開発をしていたの。飛行機をもっと速く飛ばすためにはどうしたらいいか。その結論が全く新しいエンヂンの開発だった。そのエンヂンはね、プロペラじゃなくて、炎を噴射して飛ぶの。伊知郎君は、ジェット・エンヂンって呼んでいた。

大牟田　ジェット？

朋子　日本語に訳したら、噴射、噴出っていう意味よ。

そこへ、筑紫野がやってくる。手には、カップを三つ載せたトレイ。

筑紫野　お待たせしました。

潔　ああ、ありがとう。

大牟田がカップを二つ取り、一つを美汐に渡す。残りの一つを潔が取る。

朋子　いただくわ。（と潔の手からカップを取る）

潔　あ、それは……。

朋子　（美汐に）で、そのジェット・エンヂンだけどね。あと一歩で完成っていうところで、実験が失敗したの。エンヂンが爆発して、伊知郎君は亡くなった。

美汐　嘘です。

潔　嘘じゃない。遺体は、僕と朋子が確認した。真っ黒に焼け焦げていたが、伊知郎に間違いなかった。信じられないなら、その時の新聞を見たまえ。図書館に行けば、保管してあるはずだ。

朋子　（大牟田に）伊知郎君の死を誰よりも悲しんだのは、お父さんの勲さんよ。社長命令で、直ちにジェット・エンジンの開発を中止させた。後には、設計図だけが残った。勲さんはそれも焼却しろって言ったけど、潔さんは密かに保管することにした。だって、ジェット・エンジンは飛行機の歴史を変える、画期的な発明よ。焼却なんて、できるわけない。

大牟田　（潔に）それほど貴重な物を、なぜ売ることにしたんです。

潔　うちの会社は、航空機の開発から撤退した。作りたくても、作れないんだよ。

美汐　叔父様にはわかっているんですか？　設計図を売ったら、どうなるか。日本の航空機はヨーロッパを抜いて、世界一になるだろう。亡くなった伊知郎も、きっと喜んでくれるはずだ。

潔　いいえ、兄は反対しているそうです。何としてでも、設計図を取り返してくれ。そう、明智さんに頼んだそうです。

美汐　明智じゃなくて、宗像よ。あの人は自分の手でジェット・エンジンが作りたいの。だから、あなたを利用して、設計図を手に入れようとしたの。

朋子　明智さんはそんな人じゃありません。

美汐　なぜそこまで信用できるのかしら。宗像君は、あなたのお兄さんを殺した男なのよ。

潔　美汐は純粋なんだ。人を疑うことを知らないんだよ。
朋子　（美汐に）だったら仕方ないけど、あなたには大牟田君て人がいるのよ。人殺しなんかに、おかしな気持ちは持たないことね。
大牟田　美汐さん、明日、僕のクライスラーでドライブに行きませんか？　海を見に。
潔　いや、美汐は二日も外出して、疲れている。（美汐に）当分の間は、自分の部屋で安静にしているんだ。これは命令だ。
大牟田　（美汐に）じゃ、ドライブは年が明けてからということにしましょう。先輩、僕はこれで失礼します。
潔　そこまで送ろう。

潔・朋子・大牟田が去る。

筑紫野　お嬢様、ご無事で何よりでした。
美汐　筑紫野、お願いがあるの。
筑紫野　駄目です。今度という今度は、絶対に駄目です。
美汐　そう言わずに、お願い。私はどうしても明智さんに会いたいの。
筑紫野　これ以上、潔様にご心配をおかけしてはいけません。どうしても行くと仰るなら、体を張って、止めさせていただきます。
美汐　あなたは、叔父様が言ったことを信じたの？
筑紫野　潔様のお話には筋が通っています。疑う理由はありません。
美汐　それじゃ、あなたもお兄様は亡くなったって？
筑紫野　宗像さんはお嬢様を利用したかった。そのために、伊知郎様は生きていると言ったんです。

美汐　だったら、なぜ叔父様は私をこの屋敷に閉じこめておくの？　震災から今日まで、私は一歩も外へ出してもらえなかった。それは、お兄様に会わせたくなかったからじゃないの？

筑紫野　それは、お嬢様の身の安全を慮って――――

美汐　もういい。わかった。筑紫野のバカ！

筑紫野　お嬢様！

美汐が去る。筑紫野が後を追う。

浅草の古着屋の倉庫。金之助・夏・林太がやってくる。ウクレレを弾きながら、歌う。

三人　「きよしこのよる、ほしはひかり、すくいのみこは、まふねのなかに、ねむりたもう、いとやすく」

そこへ、ラヂオがやってくる。

ラヂオ　何だ、この騒ぎは。

夏　稽古だよ、スリの。

ラヂオ　歌とスリと、何の関係があるんだ。

夏　あと五日でクリスマスだろう？　上野も浅草も、買い物客でいっぱいさ。そこで私らが歌ってみなよ。たくさんの人が立ち止まって、聞き惚れる。その隙に、財布をいただくって寸法さ。

ラヂオ　聞き惚れるわけねえだろう、そんな下手クソなギター。

林太　ギターじゃなくて、ウクレレだ。おまえ、見たことねえのか？

ラヂオ　ああ、前にラヂオで聞いたことがある。ハワイアンだっけ？　最近流行ってるんだよな。ちょっと貸してみろ。（とウクレレを取る）

林太　おいおい、ウクレレってのは、見た目ほど簡単じゃねえんだぞ。

ラヂオ　（ウクレレを弾きながら）「きよしこのよる、ほしはひかり」
夏　何よ。あんた、前にも弾いたことがあるのね？
ラヂオ　ねえよ。（林太に）見た目通り、簡単じゃねえか。（とウクレレを返して）
もっと練習しろ。なんなら、俺が教えてやってもいいぜ。
金之助　下っ端のくせに、偉そうな口を叩くな。
ラヂオ　俺はおまえらの仲間になったわけじゃねえ。
金之助　だったら、とっとと出て行け。ただし、指は置いてってもらうぜ。
ラヂオ　クソー。
夏　あんたの指は明智が買ったんだ。明智の仕事をやるしかないんだよ。心配はいらないよ。母ちゃんの言う通りにすれば、きっとうまくいく。
ラヂオ　全く恐ろしいババアだな、おまえらのお袋は。
夏　母ちゃんのこと、悪く言ったら、承知しないよ。
ラヂオ　へえ、おまえ、意外と母親思いなんだな。
夏　当たり前じゃないか。私みたいな可愛げのない娘をここに置いてくれたんだから。
ラヂオ　おまえ、あのババアの本当の娘じゃねえのか？
夏　私は孤児だよ。林太も金之助も。震災で親も家もなくして、途方に暮れてたら、母ちゃんが声をかけてくれたんだ。家においでって。
ラヂオ　それでスリを仕込んで、上前をハネてるってわけか。
林太　それ以上言うと、指の骨をへし折るぞ。

林太がラヂオの胸ぐらをつかむ。そこへ、明智・いねがやってくる。

いね　何をしてるんだい？
金之助　踊りの稽古だよ。歌を歌いながら、踊りを踊るのもいいんじゃねえかと思って。なあ、林太？
林太　（ラヂオに）ターンをする時は、首を残すんだ。よく覚えとけ。
いね　踊りはまた後でやりな。おまえらに大事な話があるんだ。
夏　作戦が決まったの？
いね　ああ。明智さんと相談して、組を二つに分けることにした。一つ目は、設計図を掏る組。いつも通り、三人でやってもらうけど、中身は少し変えるよ。
金之助　まさか、（ラヂオを示して）こいつを入れるって言うんじゃねえだろうな？
いね　そのまさかだよ。ラヂオ、あんた、なぜ私らがカマイタチって名乗ってるか、知ってるかい？
ラヂオ　あんたが妖怪みたいだからじゃねえのか？
明智　カマイタチのように、常に三人で行動するから。（いねに）違うかい？
ラヂオ　どういうことだ？
明智　妖怪カマイタチの正体は、三人の兄弟なんだ。長男が獲物を転ばして、次男が風を起こして切り裂いて、三男が薬を塗って去っていく。
いね　その通り。一人では難しい仕事でも、三人で協力すれば簡単になる。スリだって同じさ。一番手が相手の注意を引いて、その隙に二番手が財布を掏って、三番手に渡す。相手が気づいて、二番手を捕まえても、財布は三番手が持ち去った後さ。まあ、大抵は気づかれないんだけどね。
ラヂオ　上野駅では気づかれてたぜ。よっぽど下手クソだったんだろうな。
金之助　それは俺のことか？
ラヂオ　他に誰がいるんだよ。

金之助　母ちゃん、俺はイヤだ。こんなヤツとは組みたくねえ。
いね　そいつはちょうど良かった。おまえには別の仕事をやってもらおうと思ってたんだ。
金之助　何だって？
いね　よく聞きな。設計図を掏る組は、次の三人だ。一番手は夏、二番手はラヂオ、三番手は林太。
金之助　待てよ。二番手は俺じゃねえのか？
いね　金之助は、屋敷に忍び込む組。明智さんの助手だよ。
金之助　冗談はやめてくれ。（ラヂオを示して）こんなヤツに俺のかわりがつとまると思うか？
いね　思うね。おまえだってわかってるはずだよ。ラヂオの方が、腕は上だって。

金之助が走り去る。

夏　母ちゃん、ひどいよ。何もあんな言い方しなくたって。
いね　あの子にはいい薬だよ。近頃、少し付け上がってるからね。
林太　母ちゃん、（ラヂオを示して）俺はこいつより、金之助の方がいい。
いね　私はラヂオと組めと言ったんだ。聞いてなかったのかい？
夏　林太、金之助を連れ戻してこよう。早く。

夏・林太が去る。

いね　（ラヂオに）私は別にあんたの腕を認めたわけじゃない。明日からみっちり

ラヂオ　稽古してもらうよ。
明智　俺はまだやるとは言ってねえぜ。
ラヂオ　まさか、断るって言うんじゃないだろうな？
明智　あんた、一体どういうつもりだ？
ラヂオ　何が。
明智　一昨日、上野で会った時、スリはやめろって言ったよな？　それなのに、今度はスリをしろなんて、おかしくねえか？
ラヂオ　おかしくないさ。人の金を盗むなんて、ろくでもないヤツのすることだ。しかし、その技術が何かの役に立つにしたら？　世界が救えるとしたら？
明智　大袈裟なことを言うな。スリが世界なんか救えるもんか。
ラヂオ　それが救えるんだよ。
明智　美汐はどうなんだ。俺が設計図を掏ったら、美汐は自由になれるのか？
ラヂオ　潔はなぜ美汐を屋敷に閉じ込めていると思う。答えは人質だ。設計図に手を出したら、美汐の命はない。潔はそう言いたいんだ。
明智　あんた、美汐を見殺しにするつもりか？
ラヂオ　バカ、俺を見くびるな。美汐は、俺と金之助が助け出してくる。おまえが設計図を掏っている間に。
いね　俺はそっちの組の方がいいな。
明智　わがままを言うんじゃないよ。あんたの指は明智さんの物なんだよ。
いね　（ラヂオに）うまく行ったら、指はおまえに返してやる。
ラヂオ　（ラヂオに）さあ、やるのか、やらないのか。
やるさ。（明智に）でも、あんたのためじゃない。世界のためでもない。美汐のためにやるんだ。

いね　よし、じゃ、稽古だ。私についてきな。
ラヂオ　どこに行くんだ？
いね　丸々と太った財布がウヨウヨしてる街。銀座だよ。

明智が去る。
銀座の路上。通行人が次々と歩いてくる。ラヂオがその間を歩き、次々と財布を掏る。

ラヂオ　（いねに財布を渡して）どんなもんだい。
いね　威張るんじゃないよ。どれもこれも、中身は小銭じゃないか。こんな財布だったら、素人でも掏れるさ。
ラヂオ　でも、大金を持ってるやつは、周りを警戒してるじゃねえか。
いね　それを掏るのが、玄人なんだよ。見てごらん。（と指差して）向こうから、アタッシュケースを持った男が歩いてくるだろう。あの中身を掏ってきな。
ラヂオ　無茶言うなよ。そんなこと、できるわけねえだろう。
いね　できるよ。
ラヂオ　でも、鍵がかかってたら？
いね　鍵を開ければいいじゃないか。ほら、早く行きな。
ラヂオ　無理だ。気づかれるに決まってる。
いね　なぜそうやって、頭から決めてかかるんだい。見てな。

アタッシュケースを持った男が歩いてくる。いねが男に近付いて、並んで歩く。いねが立ち止まる。男が去る。いねがラヂオの所に戻ってくる。

いね
ラヂオ
いね
ラヂオ

いね

ラヂオ
いね
ラヂオ
いね

ラヂオ
いね

シケた野郎だね。金目の物はこれしか入ってなかったよ。（と万年筆を出す）
それ、ケースの中から掏ったのか？
あんた、見てなかったのかい？
だって、あんたの動きが速すぎて。一体どうやって掏った？　鍵はかかってなかったのか？
かかってたさ。だから、まずは背広の内ポケットから鍵を掏った。次にその鍵でケースを開けた。相手に気づかれないように、ほんの少しだけね。で、こいつを抜き取って、ケースを閉めて、鍵をかけて、その鍵をまたポケットに返した。所要時間は八秒。
すげえな、あんた。
凄くなんかないさ。私が現役の頃は五秒でできた。あんたにも、五秒でできるようになってもらうよ。
あんた、俺を買い被ってねえか？　俺はあんたみたいな妖怪じゃねえ。
うら若き乙女に向かって、妖怪妖怪、言うんじゃないよ。いいかい、ラヂオ。人の指っていうのは、なかなか良くできてるんだ。ウクレレも弾ければ、設計図も書ける。五秒もあれば、大抵のことはこなせる。あんた、春日の娘に惚れてるんだろう？
いや、俺は別に。
その子は屋敷に閉じ込められて，一人ぼっちなんだろう？　だったら、あんたのやるべきことは一つしかない。あんたが掏るのは設計図じゃない。その子の胸の中の淋しさだ。ラヂオ、あんたの指で盗み取ってやりな。その子の淋しさを。さあ、今度はあんたの番だ。

アタッシュケースを持った男が歩いてくる。ラヂオが男に近付いて、並んで歩く。ラヂオが立ち止まる。男が去る。ラヂオがいねの所に戻ってくる。

いね　獲物は？
ラヂオ　ごめん。緊張しちゃって。
いね　バカ。男のくせに、ビビるんじゃないよ。失敗したら、逃げればいいじゃないか。ほら、また来たよ。今度やらなかったら、その指、ちょん切るからね。

アタッシュケースを持った田川が歩いてくる。ラヂオが田川に近付いて、並んで歩く。ラヂオが立ち止まる。田川が去る。ラヂオがいねの所に戻ってくる。

いね　やればできるじゃないか。で、何だい、それは？
ラヂオ　さあ。（とノートを差し出す）
いね　（受け取って）日記帳だね。こんなつまらない物を掏って、何の意味があるんだい。バカ。（とノートでラヂオの頭を叩く）
ラヂオ　仕方ねえだろう？　中身を確認する余裕なんかなかったんだから。
いね　だったら、確認できるようになるまで練習だ。（と周囲を見回して）一っ所にいると、お巡りに目をつけられる。別の通りに行こう。

ラヂオ・いねが去る。
ラヂオ放送。田川がやってくる。

田川　クリスマスまであと四日。今日は取材のために、銀座へ行って参りました。

天皇陛下のご病状が思わしくないため、装飾は控え目でしたが、それでもやはり大変な賑わい。ところが、そこで大事件が発生したのです。私が命よりも大切にしている日記帳が、何者かに掏られてしまったのです。スリの方、もしこの放送を聞いていたら、お願いです。私の日記帳を返してください！

田川が去る。

浅草の古着屋の倉庫。ラヂオ・明智・いね・金之助・夏・林太がやってくる。

明智　作戦の決行日が決まった。十二月の二十四日、午後六時ちょうどだ。
ラヂオ　二十四日って、明日じゃねえか。
明智　そうだ。
ラヂオ　いくら何でも、早すぎねえか？　俺はまだ三日しか稽古してねえんだぜ。
いね　でも、やるしかないんだよ。
ラヂオ　（明智に）せめて、もう一週間待ってくれ。頼む。
明智　駄目だ。春日潔は明日の六時に、設計図を持って、帝都ホテルに行く。
ラヂオ　間違いねえのか？
明智　おまえが銀座で稽古している間、俺は何をしていたと思う。春日の屋敷に張りついて、電話を盗聴してたんだ。金之助と二人で。
ラヂオ　（金之助に）そいつはご苦労だったな。
金之助　おまえのためにやったんじゃねえ。
夏　（明智に）で、まんまと盗聴が成功したわけ？
明智　今から一時間前、潔は帝都ホテルに電話した。相手は、ポーイング社の社長、ロナルド・ハックマン。
ラヂオ　その名前は聞いたことがあるな。確か、ラヂオで言ってた。

明智　ハックマンが日本に来たのは、自分の会社の飛行機を売り込むため。というのは表向きで、本当の目的は、潔との取引。

夏　例の設計図を買いに来たんでしょう？

明智　何度も交渉を重ねて、ついに一時間前に取引が成立。明日の午後六時、帝都ホテルのハックマンの部屋で、設計図を渡すことになった。見ろ。これが帝都ホテルの平面図だ。

明智が平面図を広げる。五人が覗き込む。

明智　（平面図を指して）ここが正面玄関。潔はここから入ってくる。まずはフロントへ行って、自分が到着したことをハックマンに知らせる。ハックマンからは、すぐに部屋に来るように言われるだろう。潔は直ちにロビーを横切り、階段へ向かう。二階に昇って、廊下を歩いて、一番奥の貴賓室。ハックマンの部屋に到着だ。

いね　（ラヂオに）掏るのは、玄関からハックマンの部屋までの間。直線にして、二百メートルだ。

金之助　二百メートルって、どれぐらいの長さだ？

林太　百メートルが五十五間だから、約一町。二百メートルは約二町だ。

夏　とすると、普通に歩いたら、三分ぐらいだね。

ラヂオ　待てよ。たったの三分しかねえのか？

いね　あんたの仕事は五秒で終わる。三分もあれば、上等じゃないか。

明智　設計図がハックマンの手に渡ったら、もう手の出しようがない。ヤツには、護衛が四六時中、張りついてるからな。おまけに、明日の朝には日本を発っ

て、アメリカに帰る。いいか、ラヂオ。設計図が手入れられるかどうかは、この三分にかかってるんだ。

夏　ねえ、明智さん。その設計図って、そんなに値打ちがある物なの？

明智　ハックマンはいくらで買い取ることにしたと思う。五十万ドル。日本円で、百万だ。

金之助　百万だと？　それだけあったら、ざる蕎麦が何枚食えると思ってるんだ。

林太　一枚十銭だから、一千万枚だ。

夏　どうせなら、もっと高い物を食いなよ。

ラヂオ　（明智に）信じられねえ。ただの紙切れが、百万もするのか？

明智　おまえ、ライト兄弟は知ってるか？

ラヂオ　知ってるさ。世界で初めて飛行機を飛ばしたヤツらだろう。

明智　そうだ。今から二十三年前、ライトフライヤー号って飛行機で空を飛んだ。

夏　じゃ、その時の速度は？

明智　百キロぐらい？

林太　ライトフライヤー号の動力は手作りのガソリン・エンヂンだった。時速はわずか四十八キロ。

明智　なんだ。車より遅いじゃねえか。

夏　しかし、ガソリン・エンヂンは次々と改良された。今の飛行機は、時速二百キロで飛ぶ。

明智　凄い。ライトフライヤー号の四倍？

金之助　ところが、春日伊知郎が開発したジェット・エンヂンなら、さらに速度が上がる。最後の実験では、時速八百キロに達した。

八百キロだと？　信じられねえな。ところで、キロって何だ？

林太　今さら、そんな根本的なことを聞くな。明智さん、続きをどうぞ。
明智　（ラヂオに）ハックマンがなぜわざわざ日本に来たのか、これでわかっただろう。ジェット・エンヂンは、飛行機の歴史を確実に変える。さらに改良を加えれば、音速だって超えられるかもしれない。そうなったら、世界中のどこへでも、瞬時に飛んでいけるようになる。
夏　凄い凄い凄い！
いね　でもね、どんな物にだって、いい面と悪い面があるんだよ。
ラヂオ　何だよ、悪い面て。
明智　八年前の世界大戦で、飛行機は兵器として使われ始めた。空から爆弾を落とす、爆撃機ってヤツだ。おかげで、死者は爆発的に増大した。ジェット・エンヂンは間違いなく、爆撃機に組み込まれるだろう。そうなったら、死者はさらに増大する。
いね　戦争はたくさん殺した方が勝ちだ。世界中の国がジェット・エンヂンをほしがるだろうよ。
明智　ジェットっていうのは、日本語で噴射って意味なんだけどな。他にもう一つ意味があるんだ。
ラヂオ　何て意味だよ。
明智　黒。石炭の、あの真っ黒い色をジェットと呼ぶんだ。ジェット・エンヂンはすばらしい。が、使いようによっては、人殺しの道具にもなる。そんな物をハックマンに渡すわけには行かない。
夏　でも、私らがその設計図を盗んだとしても、予備が取ってあるんじゃない？書き写したりしてさ。
明智　もちろん、写しは自宅の金庫に保管してあるだろう。だから、そっちは俺と

金之助でいただく。
帝都ホテルに行くのは、夏、林太、ラヂオの三人だ。わかってるね？
（明智に）あんた、さっき、こう言ったよな？　ジェット・エンヂンを改良すれば、どこへでも飛んでいけるようになるって。
明智　それがどうした。
ラヂオ　月は？　月にも行けるようになるか？
金之助　バカ。ガキみてえなことを言うな。
ラヂオ　でも、そういう本があるじゃねえか。『月世界旅行』だっけ？
明智　ジュール・ヴェルヌか。そうだな。月世界旅行だって、そのうち、夢じゃなくなるかもしれない。十年後は無理だが、五十年後には、おまえも月に行けるかもしれないぞ。
ラヂオ　本当か？　すぐにコテツに知らせてやらなきゃ……。しまった。
夏　どうしたの？
ラヂオ　今日は三日目だった。俺、コテツに約束したんだ。三日以内に、必ず迎えに行くって。

明智・いね・金之助・夏・林太が去る。
浅草のカフェー新世界。コテツがやってくる。
コテツ　ごめんください。ごめんください。
そこへ、藤子・つるよがやってくる。

藤子　何だい、あんた。ここは子供が来る所じゃないよ。
コテツ　こちらに、小林ラヂオという者がお世話になってると思うんですが。
藤子　別にお世話なんかしてないけど、あんた、ラヂオの友達かい？
コテツ　弟です。コテツって言います。
藤子　ああ、あんたが。お兄ちゃんに会いに来たんだね？
コテツ　はい。兄はいますか？
藤子　さあ、ここ二、三日、顔を見てないよ。ねえ、女将さん？
つるよ　三日前に、カマイタチに連れていかれただろう？　あれが最後だよ。
コテツ　あの、兄はこちらで働いてるんじゃないんですか？
つるよ　ラヂオがそう言ったのかい？
コテツ　ええ。違うんですか？
つるよ　たまに雑用を頼むことはあるけど、従業員てわけじゃないよ。ラヂオの本職は別にあるからね。私はいつもやめろって言ってるんだ。スリなんて危ない仕事は。
藤子　女将さん！
コテツ　（つるよに）今、スリって言ったんですか？
藤子　違うよ。女将さんはリスって言ったんだ。リスっていうのは、道行く人にクルミを売る商売でね。
つるよ　藤子ちゃん、本当のことを教えてやった方がいいよ。この子は実の弟なんだから。（コテツに）あんたの兄さんはスリだよ。人の懐から財布を掏って、その金でおマンマを食ってるんだ。
コテツ　嘘です。
つるよ　私が嘘をついて、何の得があるのさ。

コテツ　兄がスリなんかするはずがありません。兄の名前はラヂオですから。
つるよ　どういう意味だい？
コテツ　ラヂオって名前は、亡くなった父が付けたんです。天羅地網。悪は必ず天によって裁かれるべし。悪いことを決してしない、正しい心の持ち主になれ。天羅地網の羅と地で、羅地男。
つるよ　残念だけど、名前の通りにはなれなかったようだね。
藤子　女将さん、そこまで言わなくても。
つるよ　（コテツに）まあ、カマイタチに捕まって、少しは懲りただろう。今頃、どこかの工場で、まじめに働いてるのかもしれないよ。さあ、用が済んだら、帰った、帰った。

つるよが去る。

藤子　すまないね。女将さんは悪い人じゃないんだよ。ラヂオがそこの通りで行き倒れになってた時、助けてあげたのは女将さんなんだから。
コテツ　兄は、今日、迎えに来るって言ったんです。
藤子　何か、急ぎの用ができたんじゃないかい？　それで、どうしても行けなかったんだよ。
コテツ　……。
藤子　元気をお出しよ。（キャラメルを出して）ほら、これでも食べて。

藤子がコテツにキャラメルを渡す。コテツが去る。反対側へ、藤子が去る。

ラヂオ　　ごめんな、コテツ。ごめんな。

ラヂオが去る。

本郷の春日邸の玄関。朋子がやってくる。後を追って、美汐がやってくる。

美汐　叔母様、お出かけですか？

朋子　潔さんと帝都ホテルに。言っておくけど、遊びじゃないわ。仕事よ。せっかくのクリスマスイブなのに、いやになっちゃう。

美汐　仕事のお相手はどなたですか？

朋子　なんて名前だったかしら。私、人の名前はなかなか覚えられなくて。

美汐　ロナルド・ハックマンじゃないですか？　ポーイング社の社長の。叔父様はその人に、設計図を売りに行くんじゃないですか？

朋子　それはあなたに関係ないことよ。

そこへ、潔・筑紫野がやってくる。潔の手にはアタッシュケース。

潔　（朋子に）待たせたね。行こう。

美汐　叔父様、設計図を売るのはやめてください。

潔　（朋子に）話したのかい？

朋子　私は帝都ホテルに行くって言っただけよ。（美汐に）ねえ？

美汐　（潔に）ポーイング社はジェット・エンヂンを爆撃機に使います。そうした

ら、またたくさんの人が死ぬんです。

潔　それは戦争が起きたらの話だ。

美汐　起きないという保証はどこにもありません。だから、お兄様は設計図を取り返そうとしたんです。

潔　伊知郎はもう死んだんだ。死んだ人間に、とやかく言う権利はない。筑紫野、戸締りに気をつけてくれ。何かあったら、すぐに警察に通報するんだ。

筑紫野　かしこまりました。

美汐　待ってください、叔父様。

朋子　美汐さん、いい加減にして。潔さんがしていることは、みんなこの家のためなの。それは同時に、あなたのためでもあるのよ。

潔・朋子が去る。

筑紫野　お嬢様、今のお話は本当ですか？　設計図をボーイング社に売るというのは。

美汐　本当よ。

筑紫野　しかし、潔様は大牟田様にこう仰いました。日本の航空機は世界一になると。私はてっきり、国内の会社に売るのかと。

美汐　明智さんが言ってたわ。叔父様は、大きな会社から順番に売っていくつもりだって。

筑紫野　だとしたら、国内の会社は一番最後になります。もし、その前に戦争が起きたら……。潔様がなさろうとしているのは、国を売るのと同じことです。

美汐　だから、何が何でも、止めなきゃいけないのよ。筑紫野、私を帝都ホテルに行かせて。

筑紫野　しかし、お嬢様が行っても、潔様をお止めすることはできないでしょう。
美汐　筑紫野。
筑紫野　お部屋にお戻りください。さあ。

美汐が去る。筑紫野が後を追う。
浅草のカフェー新世界。ラヂオ・いね・夏・林太がやってくる。

いね　何だい、この店は。クリスマスイブだって言うのに、客が一人もいないじゃないか。
ラヂオ　あんまり流行ってないんだ。女給の質に問題があって。
林太　わかる。俺だったら、絶対に別の店に行く。
ラヂオ　（いねに）でも、ここにはラヂオがあるんだ。待つのに飽きたら、ラヂオを聞いてくれ。
夏　どうする、母ちゃん？
いね　私は気に入ったよ。腹が減ったら、おマンマもいただける。作戦本部にはピッタリだ。

そこへ、藤子・つるよがやってくる。

藤子　ラジオ。あんた、今までどこに行ってたんだい。心配してたんだよ。
ラヂオ　藤子さんが俺を？
藤子　昨日、ここにあんたの弟が来たんだよ。あんたに会いに。
ラヂオ　コテツが？

藤子　あんた、あの子に約束したんだろう？　昨日、迎えに行くって。あんたが来てくれなかったから、自分から来たんだよ。あの子、泣いてたよ。

ラヂオ　俺にはどうしてもやらなきゃならねえ仕事があったんだ。

つるよ　いよいよどっぷりスリにはまっちまったのかい？

ラヂオ　違う。俺の仕事は｜｜｜

つるよ　ごまかすんじゃないよ。そこにいる人は、カマイタチのいねだろう？

いね　前にどこかで会ったかい？

つるよ　浅草で商売をやってて、あんたを知らないヤツはいないよ。スリが有名になったら、おしまいだ。（ラヂオに）だから、私は引退したんだよ。

藤子　ラヂオ、あんた、カマイタチの仲間になったのかい？

ラヂオ　そうじゃねえ。今度の仕事だけ、一緒にやることにしたんだ。

藤子　危ない仕事じゃないだろうね？　あんたにもしものことがあったら、コテツちゃんはどうなるんだい？

ラヂオ　俺のことなら、心配いらねえ。必ずうまくやってみせるさ。なあ、つるよさん。実はあんたに頼みがあるんだ。

つるよ　スリの片棒を担げって言うんなら、お断りだよ。臭いおマンマは食いたくないからね。

夏　違います。この店を今夜一晩、貸してほしいんです。

つるよ　冗談を言うんじゃないよ。これから、混雑する時間なのに。

藤子　女将さん、見栄を張るのは止めましょう。（夏に）この店で何をしようって言うんだい？

夏　連絡場所として、使いたいんです。ほら、ここには電話があるから。

藤子　いくら出す？
つるよ　藤子ちゃん、勝手に交渉を進めるんじゃないよ。
藤子　まあまあ。どうせ客は来ないんですから、こいつらから銭をふんだくりましょうよ。
いね　なかなか度胸のいい女給さんだね。で、いくらほしいんだい。
藤子　（つるよに）いくらにしますか？
つるよ　うちの店の上がりは、一日四十円から五十円だよ。
藤子　（いねに）百円。これ以上は、びた一文、負けられないよ。
いね　いいだろう。ほら、百円だ。（と金を渡す）
藤子　え？　そんなにあっさり出してくれるなら、もう一声。
いね　じゃ、あと一銭。（と金を渡して）これで準備は整った。夏、林太、ラヂオ、行っておいで。
林太　合点、承知の助！

ラヂオ・夏・林太が去る。
本郷の春日邸の居間。明智・金之助がやってくる。明智は懐中電灯を持っている。反対側から、筑紫野がやってくる。

筑紫野　あなたたち、ここで何をしているんです！
明智　メリークリスマス、筑紫野さん。これは僕から君へのクリスマス・プレゼントだ。（と懐中電灯を差し出して）受け取ってくれ。
筑紫野　なぜこれを私に？
明智　君は今年一年、美汐の世話をしっかりやってくれた。そのお礼だ。

筑紫野　お気持ちはうれしいですが、あなたはサンタクロースではないし、私は子供ではない。受け取るわけには行きません。

金之助　タダでくれるって言ってるんだから、もらえばいいだろう。

筑紫野　あなた方の狙いはわかっています。これをやるかわりに、お嬢様を渡せとか何とか言うつもりなんでしょう。

明智　そう。それと、予備の設計図がほしい。君なら、潔の部屋の鍵が開けられるんじゃないかと思ってね。

筑紫野　できませんよ、そんなこと。もしできたとしても、主人を裏切るわけには行きません。

金之助　ああ、めんどくせえ。プレゼントなんかいいから、さっさと縛っちまおうぜ。

筑紫野　やめてください。それ以上、近寄ったら、人を呼びますよ。

金之助　おまえなあ、男なら、人に頼らずに、自分で戦えよ。（と筑紫野に歩み寄る）筑

紫野　それはいやです。私は暴力が嫌いなんです！

そこへ、大牟田が飛び出す。

大牟田　おまえら、ここで何をしている！

金之助　クソー！

金之助が大牟田に殴りかかる。大牟田が避けて、金之助を殴る。金之助が倒れる。明智が大牟田の体をつかむ。大牟田が明智を振り飛ばし、殴りかかる。明智が避けて、転ぶ。大牟田が明智の体をつかみ、殴ろうとする。そこへ、美汐が飛び出す。手にはペーパーナイフ。

美汐　大牟田さん、やめてください！
大牟田　美汐さん、ナイフを向ける相手を間違えてますよ。
美汐　いいえ、これでいいんです。大牟田さん、その人を放してください。
大牟田　まさか、僕を刺したりしませんよね？
美汐　私の言う通りにしてくれれば。
大牟田　（明智を放して）美汐さん、僕にはわからない。あなたはなぜこんな男の味方をするんです。こいつはあなたのお兄さんを殺した男なんですよ。
美汐　この人は私に思い出をくれました。
大牟田　思い出なら、僕にだってあげられる。これから、僕と二人で作りましょう。
美汐　あなたと二人で？
大牟田　僕はあなたを愛している。あなたも僕を愛している。
美汐　それはあなたの誤解です。
大牟田　いいえ、あなたは気づいてないだけだ。信じられないなら、証拠を見せましょう。

大牟田が美汐に近づき、ペーパーナイフをつかむ。

大牟田　あなたには僕が刺せない。それは、あなたが僕を愛しているからだ。

大牟田が美汐を抱き締める。筑紫野が大牟田を懐中電灯で叩く。大牟田が倒れる。筑紫野がペーパーナイフを拾う。

筑紫野　それは違います。単なる動物愛護精神です。
美汐　筑紫野……。
筑紫野　私も動物は大好きです。しかし、お嬢様を傷つけるヤツは絶対に許しません。
金之助　いいのか、おっさん？　ご主人様にバレたら、クビだぞ。
筑紫野　何を言ってるんです。今のは、あなたがやったんでしょう？
金之助　俺が？

筑紫野がペーパーナイフを美汐に渡し、自分の右手を金之助に持たせ、自分から体を捩じる。

筑紫野　痛い痛い痛い！　何をするんですか！
金之助　俺は何もしてねえ。
筑紫野　え？　潔様の部屋の鍵ですか？　わかりました。開けますよ。

筑紫野・金之助が去る。

美汐　明智さん、叔父様と叔母様は帝都ホテルに行きました。
明智　わかってる。そっちには、ラヂオが行ってる。
美汐　ラヂオ君が？

明智・美汐が去る。大牟田は倒れたまま。
浅草のカフェー新世界。電話が鳴る。いねが受話器を取る。

いね

（受話器に）はい、こちら、新世界。

つるよ

なんであんたが出るんだよ。ここは私の店だよ。

藤子

まあまあ、好きにさせてあげましょうよ。百円一銭ももらったんだから。

いね

（受話器に）よし、これで一安心だね。え？　……そうかい。それは困ったね。……わかった。あんたに任せるよ。じゃ。（と受話器を置く）

藤子

明智さんですか？

いね

ああ。お嬢様も設計図も無事、手に入れたそうだ。ただ一つ、問題があってね。お嬢様が帝都ホテルに行くって言ってるらしいんだ。

藤子

相変わらず、じゃじゃ馬ですね。でも、ラヂオは困るんじゃないかな。

つるよ

なぜだい？

藤子

だって、見られたくないでしょう？　自分がスリをしてる所は。

日比谷の帝都ホテルのロビー。林太が走ってくる。反対側から、ラヂオ・夏が走ってくる。

林太　来たぞ！　敵は二人だ。
夏　二人？
林太　潔のヤツ、女房を連れてきやがったんだ。
ラヂオ　大丈夫か、夏？
夏　何人来ようが、同じだよ。要は、敵が夢中になる話をすればいいんだ。
ラヂオ　なるべく長い話にしてくれよ。
夏　敵がロビーに入ってきたら、すぐに話しかける。後はあんたに任せたからね。
ラヂオ　わかってる。（と歩き出す）
林太　待てよ。おまえ、敵に顔を知られてるんだろう？　顔を隠せよ。
ラヂオ　わかってる。（とマフラーを顔に巻く）
林太　ケッ、ビビりやがって。素人はこれだから困るぜ。
ラヂオ　文句があるなら、おまえが二番手をやれ。あ、おまえの腕じゃ無理か。
林太　なんだと？
夏　こんな所で喧嘩するんじゃないよ。ほら、さっさと物陰に隠れて。

ラヂオ・林太が物陰に隠れる。そこへ、潔・朋子がやってくる。潔の手にはアタッシュケース。夏が潔に歩み寄る。

夏　（東北弁で）すみません。ちょっとお伺いしてもよろしいですか？
潔　何ですか、お嬢さん？
夏　こちらのホテルに泊まるには、どうしたらいいんでしょう。
朋子　フロントに行って、泊まりたいって言えばいいのよ。でも、今夜はちょっと難しいかもしれないわね。クリスマスイブだから。
夏　（泣き出す）
朋子　どうしたの？　いきなり泣いたりして。
夏　両親が田舎から出てきたんです。一生に一度でいいから、東京見物がしたい。そう言って、青森から夜行に乗って。浅草や銀座を案内したら、二人とも、とても喜んでくれて。
朋子　一生懸命、親孝行したのね？　偉いわ。
夏　二人は明日の始発で青森に帰ります。だから、今夜はゆっくり休ませてあげたいんです。今、外で私を待ってるんです。
潔　おかしいな。外にはドアボーイしかいなかったよ。
朋子　あなた、ちゃんと見たの？
潔　見たよ。良からぬヤツに待ち伏せされたら、困るからね。たとえば、君のような。（と夏の腕をつかむ）
夏　何をするんですか。放してください。
潔　君の訛りは青森じゃない。山形だ。次からは、気をつけた方がいい。

そこへ、ラヂオが飛び出す。

ラヂオ　夏！

潔　これはこれは、ラヂオ君じゃないか。こんな所で何をしているんだい？

ラヂオ　俺は別に。

潔　なるほど。この子と逢い引きか。ほら、お返しにするよ。（と夏を突き飛ばす）

朋子　（夏に）何よ。あなたたち、グルだったの？

ラヂオ　（夏に）大丈夫か、夏？

潔　まさか、君が宗像の側につくとはな。宗像に伝えたまえ。もう何をしても、手遅れだ。諦めて、楽しいクリスマスを過ごせと。

潔・朋子が去る。そこへ、林太が飛び出す。

林太　バカ野郎！　作戦が台無しじゃねえか！

林太がラヂオに殴りかかる。ラヂオが右手で顔を押さえる。林太の拳がラヂオの右手に当たる。ラヂオが悲鳴をあげる。

夏　どうしたの？

ラヂオ　（右手を押さえて）林太の拳が人指し指に……。

夏　そんな……。（林太に）なんてことするんだよ、この唐変木！

林太　待てよ。悪いのはこいつの方だろう？

夏　最初に失敗したのは、私だよ。（ラヂオに）とにかく、怪我の手当てをしよう。こっちに来て。

ラヂオ・夏・林太が去る。
浅草のカフェー新世界。電話が鳴る。いねが受話器に手を伸ばすが、つるよが先に取る。

つるよ　ここは私の店だよ。（受話器に）はい、新世界です。……いねさん、あんたに電話。（と受話器を差し出す）

いね　（受け取って）もしもし。……ああ、夏かい。……慌てないで、ちゃんと説明するんだよ。ラヂオがどうしたって？

藤子　ラヂオに何かあったの？

いね　人差し指が折れたってさ。

藤子　折れた？（受話器を取って）なぜそんなことになったんだい。訳を言いなよ。

つるよ　藤子ちゃん、あんたは関係ないだろう？

藤子　（受話器に）何だって？　設計図を掏る前に、正体がバレた？

いね　悪いけど、返してくれないかい？

藤子　（受話器に）バカ！　仲間同士で喧嘩して、何になるんだい。いいから、すぐに帰ってきな。

いね　（受話器を取って）藤子ちゃんの言う通りだよ。もう一度、作戦を練り直す。三人とも、戻ってきな。……何だって？

つるよ　今度はどうしたの？

いね　（受話器に）駄目だ。私は絶対に許さないよ。夏！　夏！

つるよ　いねさん、何があったんだよ。

いね　（受話器を置いて）ラヂオのバカが、もう一回やるって言ってるって。
藤子　指が折れたのに？

日比谷の帝都ホテルの廊下。潔・朋子がやってくる。後から、ラヂオが走ってくる。

ラヂオ　待てよ！
朋子　ラヂオ君、あんまりしつこいと、嫌われるわよ。
ラヂオ　あんたに嫌われても、痛くも痒くもねえ。俺はあんたの旦那に用があるんだ。
潔　悪いが、僕は忙しいんだ。
ラヂオ　五秒でいい。俺の質問に答えてくれ。
潔　僕はこれから人に会わなければいけない。時間に厳しい人でね。遅刻するわけには行かないんだよ。
ラヂオ　教えてくれ。ジェット・エンヂンを改良すれば、月に行けるようになるのか？
潔・朋子　（顔を見合わせて笑う）
ラヂオ　何がおかしい。
潔　君という人間は、見かけと違って、想像力があるようだね。ぜひ、空想科学小説を書くといい。
ラヂオ　俺をバカにしてるのか？
潔　当たり前だろう？　月なんかに行って何になる。
朋子　行きましょう、潔さん。

潔・朋子が歩き出す。ラヂオが後を追う。

ラヂオ　待てよ。俺は月に行けるか行けないか、聞いてるんだ。

そこへ、林太が飛び出す。

林太　行けるわけねえだろうが、バカ野郎！

潔・朋子が林太を見る。ラヂオが左手で潔の背広の内ポケットから鍵を取り出し、アタッシュケースの鍵穴に差し込み、回し、アタッシュケースを開け、中から封筒を取り出す。そこへ、美汐が飛び出す。

美汐　ラヂオ君！

潔　美汐、ここへ何しに来た。

朋子　あなた、アタッシュケースが！

潔　（アタッシュケースを見て）ラヂオ、君か？

ラヂオ　何のことだ？（と後ずさりする）

朋子　待ちなさい！（とラヂオの右手をつかむ）

ラヂオ　（悲鳴をあげる）

朋子　その手に持っている物を返しなさい。早く！

美汐　叔母様、ラヂオ君を放して！

朋子　何を言ってるの？　こいつは薄汚いスリなのよ！

林太が朋子に飛びかかる。朋子がラヂオの手を放す。

林太　ラヂオ、逃げろ！
ラヂオ　美汐、来い！

ラヂオ・林太が走り去る。潔が拳銃を取り出し、ラヂオの背中に向かって撃つ。美汐が潔の腕をつかむ。潔が美汐の手を振り払う。美汐が倒れる。そこへ、明智が飛び出す。

明智　美汐！
潔　久しぶりだな、宗像。
明智　人違いじゃないか？　僕は明智小五郎だ。
潔　生憎、僕はその名前を知らなくてね。大牟田君に教えられて、読んでみたよ。『D坂の殺人事件』『二銭銅貨』『心理試験』。なかなかおもしろい読み物だった。君があの名探偵だと言うなら、ぜひとも仕事を依頼したい。実は、大事な書類をスリに掏られてね。それを取り戻してほしいんだ。
明智　あの設計図は、元々、伊知郎の物だ。
潔　僕の依頼を断るって言うのか？　そんなことをしたら、美汐がどうなると思う。（と美汐に拳銃を向ける）
明智　あんたに美汐は殺せない。殺せば、あんたはおしまいだ。
朋子　そうね。でも、足を撃つだけなら、死にはしない。そのかわり、大きな傷跡が残るでしょうけど。
明智　（潔に）美汐を傷つけたら、貴様を殺す。
朋子　あなたがそんなことを言える立場なの？　美汐さんを助けたかったら、さっさと設計図を取ってなさい。
潔　朋子、ハックマンの部屋に行こう。取引を延期してくれって頼まないと。

朋子　延期って、どれぐらい？

潔　二時間だ。（明智に）一時間後に、愛宕山に来い。そこで、設計図と美汐を交換する。

明智が去る。反対側へ、潔・朋子・美汐が去る。

本郷の春日邸の居間。筑紫野がやってくる。電話をかける。
浅草のカフェー新世界。電話が鳴る。藤子が受話器を取る。

藤子　（受話器に）はい、こちら、作戦本部。
筑紫野　（受話器に）作戦本部？　そちらはカフェー新世界ではないのですか？
藤子　その声は筑紫野さんだね？　私、藤子。元気だった？
筑紫野　ええ、まあ。それより、そちらに、お嬢様から連絡はありませんか？
藤子　お嬢様なら、春日潔に捕まって、人質になったよ。
筑紫野　人質に？
藤子　潔のヤツ、ラヂオが設計図を掏ったら、怒っちゃって。お嬢様を返してほしかったら、愛宕山に来いって。で、今、明智さんが向かってる。
筑紫野　わかりました。私も今から行きます。で、愛宕山というのはどこにあるんですか？
大牟田　（起き上がって）愛宕山？

大牟田が走り去る。

藤子　どうしたんだい、筑紫野さん！

筑紫野　大牟田様に逃げられました。
藤子　この役立たず！
筑紫野　面目ありません。

筑紫野が受話器を置いて、走り去る。

藤子　（受話器を置いて）大牟田が逃げました。
つるよ　まさか、あいつも愛宕山に行ったんじゃないだろうね？
藤子　どうしましょう、いねさん？
いね　浅草寺にお参りに行こう。
つるよ　なぜこんな時に？
いね　ここまで来たら、あの子らに任せるしかない。私らにできるのは、精々、無事を祈ることだけだよ。
藤子　行きましょう、女将さん。

いね・藤子・つるよが去る。
愛宕山。美汐・潔・朋子がやってくる。

潔　どうした、美汐？　気分でも悪いのか？
美汐　頭が痛むんです。さっき、叔父様が銃を撃った時から。
朋子　もう少しだけ我慢して。設計図が手に入ったら、屋敷に帰してあげるから。
美汐　（周囲を見回して）私、前にもここに来たことあります。
潔　四日前、ラヂオ君と来たんだ。

美汐　もっと前です。子供の頃、私がまだ小学生の頃です。
朋子　あなた、記憶が蘇ったの？
美汐　（写真を取り出して）この写真は、ここで撮ったんです。誰かと遊びに来て、その人が記念にって、撮ってくれたんです。その人は、私よりずっと背が高くて、学生服を着ていて。
潔　顔は思い出せるか？
美汐　明智さんです。この写真を撮ったのは、明智さんだったんです。
潔　宗像は、伊知郎の幼なじみだ。横浜の屋敷には、君が生まれる前から出入りしていた。君は赤ん坊の頃から、宗像に遊んでもらっていたんだよ。
美汐　そうです。ここに来た時も、明智さんは私とかくれんぼをしてくれました。私は明智さんが見つけられなくて、シクシク泣き出して。そうしたら、向こうの神社の方から歌声が聞こえてきて。（歌う）「あした浜辺をさまよえば」
朋子　浜辺の歌ね。あなた、その歌が大好きだったのよ。
美汐　私は明智さんと二人でここに来たんですか？　そんなはずないですよね？　兄も一緒に来たはずです。でも、思い出せない。兄の姿はどうしても思い出せないんです。
朋子　あなたは宗像君が好きだったんじゃない？　だから、宗像君のことしか見てなかったのよ。
美汐　（潔に）明智さんは兄の親友だったんですよね？　そんな人が、なぜ兄を殺したんですか？
潔　ジェット・エンヂンの開発を止めるためだ。自分で開発を始めたくせに、突然、態度を変えたんだ。
美汐　それはなぜですか？

潔　事故が起こる一週間ほど前だ。君のお父さんが研究所に来た。実験を見学するために。その時、お父さんはこう言ったんだ。ジェット・エンヂンを爆撃機に搭載すれば、日本は世界の空を制するだろうと。

朋子　（美汐に）それを聞いた宗像君は、わざと実験を失敗させたの。ジェット・エンヂンを爆発させたのよ。

美汐　それじゃ、兄を殺すつもりはなかったんですね？

朋子　たとえそうだったとしても、伊知郎君が亡くなったことに変わりはない。美汐さん、宗像君はお兄さんの仇なのよ。

美汐　私は明智さんを信じます。

潔　勝手にしたまえ。僕は宗像を許さない。伊知郎を殺したことも、設計図を奪ったことも。

朋子　潔さん、来たわ。

そこへ、明智がやってくる。

潔　（時計を見て）うん、時間通りだ。約束を守ってくれて、礼を言うよ。で、設計図は？

明智　（封筒を示して）ここにある。美汐と交換だ。

潔　地面に置いて、下がれ。早く。

明智が封筒を地面に置く。潔が拳銃を取り出し、明智の右腕を撃つ。明智が倒れる。美汐が悲鳴を上げて、明智に駆け寄る。そこへ、ラヂオが飛び出す。

ラヂオ　明智！
明智　バカ野郎。来るなと言ったはずだ。
潔　美汐、そこを退け。
美汐　（明智を庇って）いやです！

潔が拳銃を撃つ。

潔　今のはわざと外したんだ。しかし、今度は君を狙う。
明智　美汐、逃げろ。
美汐　あなたを見殺しにはできません。
明智　こうなることはわかってた。俺のことはいいから、早く行け。
美汐　いやです、お兄様！
ラヂオ　美汐、今、なんて言った？
明智　美汐……。
美汐　……向こうの神社の方から歌声が聞こえてきて、私は走ったんです。歌声を目指して。そうしたら、鳥居の陰から、あなたが顔を出して、ニッコリ笑った。私はあなたに向かって、お兄様って。
ラヂオ　でも、おまえの兄貴は死んだはずだ。
潔　美汐、今、思い出したことは忘れるんだ。
美汐　叔父様、この人は私の兄なんですね？
潔　そうだ。ジェット・エンヂンを爆発させたのは、宗像じゃない。伊知郎だ。しかし、春日家の長男がそんなことをしたなんて、世間に知られるわけには行かなかった。だから、伊知郎をアメリカに逃がしたんだ。

美汐　叔父様が？
潔　言ってなかったか？　伊知郎が勤めていた研究所の所長は、僕だったんだ。
朋子　（美汐に）潔さんは春日家を守るために、伊知郎君を逃がしたの。伊知郎君は喜んで、サンフランシスコ行きの船に乗ったわ。
明智　違う。俺は警察に自首しようとした。（潔に）しかし、あんたが止めたんだ。美汐を人殺しの妹にするつもりかって。
朋子　嘘よ。
明智　ところが、三年ぶりに日本に帰ってきて、驚いた。爆発で死んでいたのは俺で、人殺しは宗像で。（潔に）おまけに、春日家はあんたの物になっていた。今頃気づいても、手遅れだ。伊知郎、設計図を寄越せ。
潔　美汐を傷つけないと約束するか。
明智　約束しよう。ただし、美汐が今の話をすべて忘れるなら。
潔　いいな、美汐？
美汐　いやです。
明智　（潔に）ほら、設計図だ。（と封筒を差し出す）
潔　（受け取って）朋子、銃を頼む。（と拳銃を差し出す）
朋子　（受け取って、拳銃を明智に向けて）動かないで。
潔　（封筒の中から紙を出して）何だ、これは。白紙じゃないか！

ラヂオが朋子に飛びかかり、拳銃をつかむ。潔がラヂオの背中を叩き、右手をつかむ。ラヂオが悲鳴を上げる。潔がラヂオを突き飛ばす。ラヂオが倒れる。潔がラヂオに拳銃を向ける。

潔　　ラヂオ、どこまで邪魔をすれば、気が済むんだ。
ラヂオ　　美汐が自由になれるまでだ。
潔　　偉そうな口を叩くな。二度とスリができなくしてやる。
　潔が拳銃をラヂオの右手に向けて、引き金を引く。が、弾は出ない。
潔　　何だと？（とラヂオを見て）おまえ、まさか？
ラヂオ　　（掌の上の弾丸を見せて）悪いな。俺、人が死ぬのは見たくねえんだ。
潔　　貴様！（とラヂオにつかみかかる）
明智　　やめろ！（と潔につかみかかる）
　潔が明智の手を振り払い、拳銃で傷口を叩く。明智が倒れる。潔が美汐をつかむ。
潔　　（明智に）設計図はどこだ。言わないと、美汐の命はない。
　そこへ、大牟田が飛び出す。
大牟田　　先輩、やめてください。
潔　　大牟田、君は関係ない。
大牟田　　関係あります。美汐さんを傷つけるヤツは、僕が許さない！
　大牟田が潔に殴りかかる。潔が避けて、美汐の体を放す。大牟田が潔を殴りかかる。潔が避けて、殴り返す。大牟田が避けて、潔を殴る。潔が倒れる。大牟田が潔の体をつか

む。

明智　大牟田君、もう十分だ。
大牟田　しかし……。
明智　（潔が歩み寄って）ハックマンに伝えてくれ。設計図は売らないと。
朋子　本物はどこにあるの？
明智　ここに来る前に、燃やしたよ。屋敷の金庫にしまってあった、写しも燃やした。
朋子　なぜそんなことを？　あなたは春日家がどうなってもいいの？
明智　俺にはもう関係ない。
朋子　あの設計図を売らなければ、春日財閥は潰れるの。美汐さんは住む家をなくすのよ。
明智　しかし、死ぬわけじゃない。ジェット・エンヂンが戦争に使われたら、何百万もの人間が死ぬんだ。（と歩き出す）
美汐　どこへ行くんですか？
明智　美汐、さよならだ。
美汐　どういうことですか？　もう会えないんですか？
明智　僕の頭の中には、まだ設計図が残ってる。そいつもさっさと消しちまわないと。ラヂオ、美汐を頼んだぞ。
ラヂオ　待てよ。あんた、死ぬつもりか？
美汐　行かないで、お兄様！（と明智に駆け寄る）
明智　来るな！
美汐　お兄様……。

明智　俺は親友を殺したんだ。
ラヂオ　でも、事故だったんだろう？　あんたが死んだら、美汐はどうなる。あんた、美汐を見捨てるつもりか？
明智　美汐はもう子供じゃない。僕がいなくても、やっていける。
ラヂオ　でも、たった一人の妹だろう。兄貴には、妹を守る義務があるはずだ。
明智　春日伊知郎は死んだんだ。三年前。宗像と一緒に。
美汐　そんなことはありません。お兄様は、今、私の目の前にいます。
明智　僕は春日伊知郎じゃない。明智小五郎だ。

明智が去る。

ラヂオ　美汐、後を追いかけよう。
潔　待ってくれ、美汐。
ラヂオ　あんた、まだ邪魔するつもりか？
潔　そうじゃない。（美汐に）伊知郎に伝えてくれ。おまえが死んでも、いつかは誰かがジェット・エンジンを開発する。それでもいいのかと。
美汐　わかりました。必ず伝えます。

ラヂオ・美汐・金之助・夏・林太が走り去る。潔・朋子・大牟田も去る。
ラヂオ局。田川がやってくる。

田川　先程、入りました情報によりますと、今から五時間ほど前、日比谷の帝都ホテルで、何者かが拳銃を発砲したようです。幸い、死傷者はありませんでし

たが、犯人は逃亡中とのこと。帝都ホテルと言ったら、ここから目と鼻の先です。ひょっとすると、この近くを犯人が歩いているかもしれません。そう言えば、さっきも外で、おかしな音がしましたね。

そこへ、金之助・夏・林太がやってくる。三人とも、ウクレレを弾いている。

三人　「ジングルベル、ジングルベル、鈴が鳴る、そりを飛ばせて、歌えや歌え」

田川　うるさいうるさいうるさい！　何ですか、あなた方は！　ここはスタジオですよ。勝手に入ってこないでください！

金之助　アナウンサーの田川さんだよな？　ちょっと頼みがあるんだ。

田川　あなた方の歌を放送しろって言うんですか？

金之助　違う違う。実は今、俺たちの知り合いが人を探してて。この辺りを探し回ったんだけど、見つからなくて。で、ラヂオを使って、呼びかけたいって言ってるんだ。なあ、いいだろう？

田川　いいわけないでしょう。ほら、早く出て行ってください。

夏　あ、そんなこと言うんだ。（とノートを取り出して）「十二月十八日、晴れ。今朝、雷門の停留場で、藤子さんに会った。これで三日連続。僕は幸せだ」

田川　その帳面はもしかして？

林太　（ノートを取って）「十二月十九日、晴れ。僕はついに決心した。今年のクリスマスイブこそ、藤子さんに僕の気持ちを――――」

田川　僕の日記帳じゃないですか！　どこで手に入れたんですか？

金之助　（ノートを取って）こいつを放送されたくなかったら、言うことを聞いてもらおうか。

そこへ、ラヂオ・美汐がやってくる。

ラヂオ　頼む。一分だけでいいんだ。美汐に話をさせてやってくれ。
美汐　（田川に）お願いします。
田川　一体、あなた方は何なんですか。
五人　ザ・カマイタチ！
田川　一分だけですからね。そのかわり、日記帳は返してくださいよ。

金之助・夏・林太が田川を連れて去る。美汐がマイクに向かう。

美汐　お兄様、私の声が聞こえますか？　もし聞こえたら、ほんの少しでいい。立ち止まって、私の話を聞いてください。私はもう子供ではありません。一人でも生きていけます。でも、一人より二人の方がいい。悩んだ時には相談に乗ってもらえるし、淋しい時には一緒に歌が歌える。兄妹というのは、それが無条件で許される関係なのではないですか？　生まれた時からの友達なのではないですか？　せっかく兄妹として生まれたのに、友達にならないなんて、そんなの……。

ラヂオ　美汐。
美汐　叔父様が言っていました。たとえお兄様が死んでもいつかは誰かがジェット・エンヂンを開発する。それでもいいのかと。科学の進歩は、誰にも止められない。だったら、最初に生み出したお兄様が、上手な使い方を考えればいい。ジェット・エンヂンが、ダイナマイトになるとは限らない。使い方次第で、

すばらしい物になるかもしれない。もしかしたら、あの夜空に輝く月にだって、行けるようになるかもしれない。お兄様なら、きっとできます。私を月まで連れていってください。お兄様……。

ラヂオ　俺も月に行きてえな、コテツと一緒に。行かせてくれよ、明智さん！

ラヂオ・美汐が去る。

浅草のカフェー新世界。筑紫野が走ってくる。奥に向かって、叫ぶ。反対側から、藤子・つるよ・いねがやってくる。筑紫野が三人に紙を見せる。

藤子　「天皇陛下今廿五日午前一時廿五分葉山御用邸において崩御あらせられる」

いね　そうかい。とうとうお亡くなりになったのかい。まだお若いのに、お気の毒なことだね。

つるよ　短かったね、大正の御世は。次の元号は何になるんだろうね。

筑紫野　何にしても、明るい時代になってほしいものです。震災も戦争もない時代に。

そこへ、ラヂオ・美汐・金之助・夏・林太がやってくる。ラヂオは右手に包帯をしている。

夏　母ちゃん、ただいま！

筑紫野　お嬢様、お待ちしておりました。ご無事で何よりです。

美汐　私を迎えに来てくれたの？

筑紫野　当たり前じゃないですか。それで、潔様と朋子様は？

金之助　あの二人なら、お巡りに捕まったぜ。愛宕山から下りてきたところで。

夏　（筑紫野に）実を言うと、お巡りを呼んだのは、私なんだ。「帝都ホテルで

筑紫野　鉄砲を撃った男は、今、愛宕山にいます」って。

美汐　春日家の当主が逮捕されたとなったら、世間は大騒ぎです。（美汐に）しばらくホテルにでも身を隠した方がいいかもしれませんね。

ラヂオ　いいえ、私は屋敷に戻ります。だって、お兄様がいつ帰ってくるか、わからないもの。ラヂオ君、いろいろありがとう。そうだ。あなたに一つお願いがあるの。

美汐　何だよ。

ラヂオ　スリはやめて。その手は、人の役に立つ仕事で活かして。（とラヂオの手を握る）

美汐　イテッ！

つるよ　あ、ごめんなさい。（と手を放す）

藤子　でも、ラヂオにできることなんて、ラヂオの修理くらいしかないですよ。だったら、電気屋になったらどうかしら。この前、ラヂオで言ってましたよ。近頃、秋葉原の辺りに何軒かできてきたって。

いね　いいじゃないか。（金之助たちに）おまえたちも一緒にやったらどうだい。

金之助　でも、スリはどうするんだよ。

いね　ラヂオであれだけ派手に名前を売っちまって、今さらスリができるかい。

夏　私、やりたい。金之助も林太もやろうよ。

林太　やるやる。俺んち、酒屋だったんだ。商いなら、任せとけ。

金之助　社長は俺にやらせろ。店の名前はカマイタチ電気店だ。

ラヂオ　俺はハリマ電気店がいいな。

夏　なんでハリマなの？

ラヂオ　死んだ父ちゃんの生まれ故郷なんだ。

筑紫野　いい名前じゃないですか。将来、大きな会社になりそうな予感がします。
つるよ　話に水を差すようで悪いけど、店を開くには資金が要るよ。
夏　そうか。
いね　明智のヤツ、支払いもせずにトンズラしやがって。今度会ったら、みじん切りにしてやるからね。
ラヂオ　（美汐に）兄貴、帰ってくるといいな。
美汐　私は帰ってくるって信じてる。皆さん、お世話になりました。
筑紫野　ご機嫌よう、皆さん。
ラヂオ　美汐、元気でな。
美汐　じゃあね、ラヂオ君。

美汐・筑紫野が去る。

藤子　いいのかい、追いかけなくて。
ラヂオ　うるせえ。

そこへ、明智がやってくる。右腕に包帯をしている。

明智　こんにちは。
藤子　あんた、今までどこに行ってたのよ。
明智　医者だよ。それより、いねさん、約束の礼金だ。（と札束をいねに渡す）
つるよ　こんな大金、どうしたの？
明智　昨夜、潔の金庫を開けたら、札束が山のように入ってた。で、五千円だけ頂

金之助　戴したのさ。
明智　俺の知らない間に、そんなことをしてやがったのか。
ラヂオ　じゃあな、ラヂオ。
明智　お屋敷に帰るのか？
ラヂオ　いや、そのつもりはない。
明智　なぜだ。あんた、昨夜のラヂオを聞かなかったのか？
ラヂオ　何が、月に行かせてくれだ。公共の電波で、勝手なことを言うな。
明智　俺のことはどうでもいい。帰ってやれよ。美汐に顔を見せてやれよ。（と明智の胸ぐらをつかんで）イテッ！（と手を放す）
ラヂオ　美汐に伝えてくれ。俺には時間が必要だ。ジェット・エンジンを使って、月に行くにはどうしたらいいか。それが思いついたら、戻るって。
明智　本当だな？
ラヂオ　その時は、堂々と本名を名乗ってみせるさ。春日伊知郎って。じゃあな。

明智が去る。

いね　ラヂオ。あんたの分け前だ。（と千円分の札束を差し出す）
ラヂオ　（受け取って）いいのか？
藤子　良かったね。迎えに行ってやりなよ、コテツちゃんを。
いね　（ラヂオに）どうした？　うれしくないのかい？
ラヂオ　本当は、一昨日、迎えに行くはずだったんだ。それなのに、俺……。
林太　一日や二日、どうってことねえだろうが。
夏　（ラヂオに）そうだよ。笑って許してくれるよ。

金之助　行ってこい、ラヂオ。それで、うちに弟を連れてこい。今日から準備を始めるんだ。ハリマ電気店の。

ラヂオ　わかった。行ってくる。（と走り出す）

つるよ　待ちなよ、ラヂオ。行くのは、ラヂオを直してからだよ。

ラヂオがラヂオを叩いて、走り去る。

藤子　（スピーカーに耳を当てて）女将さん、直ってます。

つるよ・いね・金之助・夏・林太がラヂオに歩み寄る。

ラヂオ放送。田川がやってくる。

田川　たった今、政府により、改元の詔書が発表されました。新しい元号は昭和。昭和に決定いたしました。これにより、本日の日付は、昭和元年十二月二十五日となります。この昭和の御世が、長く、平和な時代になることを、心より祈念いたします。

日暮里の商家の裏口。コテツがやってくる。周囲を見回す。溜め息をついて、中に戻ろうとする。そこへ、ラヂオが走ってくる。ラヂオの手には本。

ラヂオ　コテツ！

コテツ　あ、兄ちゃん！

ラヂオ　俺のこと、待ってたのか？

コテツ　うん。
ラヂオ　ごめんな、約束、破って。
コテツ　ううん。
ラヂオ　仕事が長引いちまってな。でも、ちゃんと手に入れたぞ、五百円。
コテツ　それ、人から盗んだ物じゃないよね？
ラヂオ　違う。これは人助けをして、手に入れたもんだ。
コテツ　本当だね？
ラヂオ　俺は人の物には手はつけねえ。約束したんだ。美汐ってヤツと。
コテツ　誰、その人？　兄ちゃんの恋人？
ラヂオ　違う。でも、俺の大切な人だ。バカ、恥ずかしいこと、言わせるな。コテツ、今日はクリスマスだったよな？　これ、おまえにクリスマスプレゼントだ。
（と本を差し出す）
コテツ　（受け取って）『月世界旅行』だ！
ラヂオ　メリークリスマス、コテツ！

コテツがラヂオに抱きつく。ラヂオがコテツの頭を撫でる。

＜幕＞